

令和 6 年千葉市教育委員会会議
第 2 回臨時会会議録

千葉市教育委員会

令和6年千葉市教育委員会会議第2回臨時会会議録

日時 令和6年7月29日（月）

午前10時00分開会

午後 5時46分閉会

場所 正 庁

出席委員	教 育 長	鶴岡 克彦
	委 員	小西 朱見
	委 員	高津 乙郎
	委 員	大山 尋美
	委 員	大濱 洋一

出席職員	教 育 次 長	秋幡 浩明	教育指導課主任指導主事	大堀 英洋
	教 育 総 務 部 長	香取 徹哉	教育改革推進課指導主事	福永 真弓
	学 校 教 育 部 長	川名 正雄	教育改革推進課指導主事	大橋 宏嗣
	総 務 課 長	山田 利雄	教育指導課指導主事	多田 幸城
	教 育 指 導 課 長	八斗 孝之	教育指導課指導主事	松永 武洋
	千 葉 高 等 学 校 長	中村 孝幸	教育指導課指導主事	石戸谷 宏美
	稲 毛 高 等 学 校 長	工藤 秀昭	教育指導課指導主事	本田 藍子
	総 務 課 総 括 主 幹	酒井 名菜子	教育指導課指導主事	遠藤 雅史
	総 務 課 長 補 佐	金井 拓也	教育指導課指導主事	竹治 哲也
	教育指導課統括指導主事	小石 伸一	教育指導課指導主事	本間 真一
	教育改革推進課主任指導主事	岩切 陽平	教育支援課指導主事	中村 裕哉
	教育指導課主任指導主事	鳥羽 波峰	保健体育課指導主事	杉本 奈津

書 記	総務課総務班主査	猪飼 恭平	総 務 課 主 任 主 事	丸山 貴裕
-----	----------	-------	---------------	-------

- 1 開会
鶴岡教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数の委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
鶴岡教育長より大山委員を指名
- 4 会期の決定
令和6年7月29日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定

6 議事の概要

(1) 議決事項

議案第170号乃至議案第176号 請願・陳情について

八斗教育指導課長より説明があった後、審議。全会一致をもって、不採択と決した。

議案第177号 令和7年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

中村千葉高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第178号 令和7年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

工藤稲毛高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第179号 令和7年度使用千葉市立中等教育学校（後期課程）用教科用図書の採択について

工藤稲毛国際中等教育学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第180号 令和7年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について

秋幡教育次長及び八斗教育指導課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第181号 令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について

議案第182号 令和7年度使用千葉市立中等教育学校（前期課程）用教科用図書の採択について

秋幡教育次長及び八斗教育指導課長より説明があった後、審議。無記名投票の結果、以下のとおり採択することと決定した。

(2) 発言の要旨

議案第170号乃至議案第176号 請願・陳情について

鶴岡教育長 議決事項に係る審議を行います。

議案第170号から議案第176号の「請願・陳情について」ですが、教育委員会組織規則第8条第13号の規定に基づき、採択又は不採択を議決することとなります。なお、本件については、関連があるため、一括して説明を行い、審議の後、議決を行うことといたします。

それでは、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 今回の教科書採択に関連する請願・陳情として8件の提出がありました。うち1件は住所の記載がなく、議案としての要件を満たしておりませんでした。よって要件を満たした7件について説明します。

議案第170号から176号までの請願・陳情は、中学校の教科書について要望しており、すべてに共通する内容として、特定の教科書発行者もしくは特定の内容を含む教科書発行者について、採択してほしい、もしくは採択しないでほしいといった要望となっています。

このことについて、見解を申し上げます。

採択の対象となる教科用図書は、文部科学省の検定を合格したものであり、学習指導要領の目標を踏まえたもの、またはその理念を逸脱しない内容のものとしてとらえています。その上で、公開された会議の場において、採択権者の責任の下、内容・構成が充実しており、本市の児童生徒の実態を踏まえたふさわしい教科用図書が採択されるべきものと考えます。

なお、議案第171号、第173号の請願・陳情にある、次年度以降、一層教科書展示会についての周知を図っていただきたい旨の願意については、本来ならば次年度の教科書展示会に対しての請願・陳情となりますが、ご意見として受け止めさせていただきます。

説明は以上でございます。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

大山委員 まずは、千葉市の子どもたちのために、多くの請願・陳情をご

提出いただきましたことに、感謝申し上げます。5月、6月の会議でも特定の教科書の採択、特定の内容に関するものについては、それぞれ、審議されている内容と同様でございました。よって、私たちの方で、調べさせていただきましたが、千葉市の子どもたちにふさわしい教科書を選ぶという視点におきまして、本日、教育委員のみなさん、教科書全て調べさせていただいており、今日、この場で、決定させていただきます。本日、いただいております請願・陳情につきましては、「この教科書を採択してほしい、あるいは採択してほしくない」という趣旨の請願でございますので、採択することはできないと、私は思います。以上です。

小 西 委 員 2点目の、次年度以降、教科書展示会についての周知を図っていただきたいとする請願についてですけれども、広く市民に周知すべきという点については、私もその通りかと思いますが、次年度に関するものですし、まずは、今年度の実施状況などを整理して、次年度に向けて、今後適切な時期に検討していただくということによろしいかと思います。そのため、この場で採択する必要はないかと思います。

鶴岡教育長 他にご意見、ご質問等ございませんようですので、採決に移ります。

議案第170号から議案第176号について、その願意を認め、採択することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手なし)

鶴岡教育長 賛成の委員はおりません。

よって、議案第170号から議案第176号を不採択することと決定します。

議案第177号 令和7年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第177号「令和7年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」、千葉高等学校校長、説明をお願いします。

中村千葉高等学校長 議案第177号「令和7年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

千葉高校における令和7年度使用の「教科用図書の選定方針」

について、ご説明申し上げます。

最初に、「1 本校生徒の実態と今後の課題」についてです。本校は、「自己の特性を生かせる進路を主体的に選択し、実現する力を育成する」ことを教育目標に掲げ、(1) 自己実現に向けた確かな学力の定着、(2) 高度な知識を獲得し、それを活用する力を養う、(3) 課題に対して問題意識を持ち、自ら考え解決しようとする姿勢を養うことを3つの柱として教育活動を行っております。

特に、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の研究指定校として、昨年度さらに「科学技術人材育成重点校」の指定を受け、理数教育を中心としたグローバル人材の育成のため、生徒の科学リテラシーの向上と国際性の涵養を目指す取り組みを行っております。

課題として、大学その他研究機関との連携事業を深め、生徒の科学的探究心をさらに向上させること、そして「受験のための英語指導」ではなく、「英語でやり取りする力・発表する力」を身に付けた「使える英語の習得」を図ることに力を入れて取り組んでいきます。

次に、「2 本校に求められる教科用図書の特色」といたしまして、普通科では、生徒の実態を踏まえたレベルの教科書であることを前提として、(1) 基礎・基本から発展的な内容まで広く扱い、興味・関心を高める表記があること、(2) SSHのプログラムの実施に必要な専門的・探究的な内容や、高大連携を視野に入れた内容等が取り扱われていること、また、理数科では、普通科の教科用図書の特色を前提とした上で、課題研究や探究活動等の内容が充実していることが挙げられます。

なお、理数科においては、専門学科としての教科書はありませんが、教科によっては、普通科に比べ難しい内容の教科書となっております。特に理科では、科学用語の英語表記、参考・発展・探究活動といった大学の内容にも触れる部分があるなど、レベルの高い教科書を使用しております。

また、普通科と同じものを使用していても、補助教材やプリントを活用し、内容を深めるなどして、理数科としての特色を出すよう努めております。

以上が、教科用図書の特色でございます。

続きまして、「3 教科用図書の選定基準」につきましては、

選定する教科用図書の内容が、本校生徒一人ひとりの実態を踏まえ、本校の教育目標及び教科・科目の目標に適合していることなどを基準として考えております。

普通科、理数科それぞれについての選定基準としましては、記載のとおりです。

それでは、具体的な選定理由について、いくつか抽出してご説明します。

左上に「様式1」と記された「令和7年度使用高等学校用教科用図書選定理由書」をご覧ください。

まず、英語では、英語コミュニケーションについては、1、3年次が「啓林館」、2年次が「三省堂」、論理・表現については、1、3年次が「桐原」、2年次が「啓林館」となっております。

学年の特徴を考慮して、英語コミュニケーションⅠについては、長文が見開きでレイアウトされており見やすいことが挙げられます。セクションごとに口頭でまとめる活動がしやすいことから、4技能5領域で色々な活動にもっていきやすく、十分な活動がしやすいこと、そして、啓林館は図版、グラフ等が多く、授業の発展のさせ方、工夫の仕方が多彩になる点も選定した理由であります。

論理・表現Ⅰについては、ALTと授業をする際、活動が容易にできる点や、インプットに関しては、現在のようにALTが常駐しているときとは別に、ALTが不在でも桐原のFACTBOOKと同じような活動ができる点が挙げられます。

啓林館も十分な英語力の土台があれば、うまく活用できますが、文法については、1年次で十分実施しているため、ALTの活動も前年度の土台があるので十分対応できます。ただ、3年次の啓林館のVision Questは中身が若干薄いので、FACTBOOKであれば大学受験でライティングができる構成になっています。1、2年次を受けて、まとめとしてこの教科書はうまく活用できるようになっています。同様にワークブックもよくできています。ALTが見られないときがあってもFACTBOOKであれば十分活用できる内容となっています。

家庭科では、「家庭基礎」又は「家庭総合」のいずれかを必修科目とすることになっております。本校では、教育課程上、「家庭基礎」を必修科目としており、2年次で普通科・理数科ともに「家庭基礎」を履修します。引き続き東京書籍の「家庭基礎」

を選定いたしました。

近年の社会情勢に合わせた内容や科学的な内容も盛り込まれており、次世代を担う生徒たちが社会に関心を持ち、考える機会を与えられる構成になっています。また、これからの超高齢化社会に向けた介護福祉教育のほか、消費者教育、金融教育等を含め、生徒が、現在そして将来にわたって「生きる力」を身に付け、自分らしい生活を創造するのに適した内容となっています。

具体的には、持続可能な社会のために、社会問題と絡めて日常生活における衣食住を考えさせるところや、キャリア教育と関連付けて教科書63ページには生徒が目指す職業についての生の声が掲載されており、同世代の人の職業観について共感したり、自分事として考えさせたりする内容になっています。

他社と比較したとき、教科書の横幅が広く、サイズが大きく見開きで見やすい構成になっているところも特徴となっています。東京書籍が一番強調していると思われる点は、教科書の最初に掲載されている「ホームプロジェクト」、こちらは、現代社会における問題解決に向けては大切なことであり、課題として取り組ませることに有用であると捉えております。

以上、千葉高等学校における令和7年度使用教科用図書について、ご説明申し上げました。よろしくお願いいたします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

では、私の方から1点。英語コミュニケーション並びに論理・表現、そして、美術において、1学年と3学年が同じ教科書で、2学年だけ違う教科書という状況です。先ほどのご説明で、学年の特徴からというようにあったのですが、生徒の視点からして学びにくい、使いにくいというようなことはないのでしょうか。

中村千葉高等学校長 今おっしゃられたように、先ほども述べましたが、学年の特徴を考慮してその学年における学習において、最適な学習内容であることを前提に、教科書の選定を行っております。2年次の英語コミュニケーションⅡについては、昨年度は啓林館の教科書を採用しておりましたが、本校で行っている総合的な探究の時間の探究テーマである、SDGsに関する題材が、三省堂の本書では扱われており、生徒が広く世界へ関心を向けることのできる題材で構成されております。また、授業の活性化を促す素材が豊富にあることも選定した理由でございます。さらに、本書の特徴としては、学習する新しい語彙が、そのページに掲載されている、学習

のポイントが明確であることです。同様に、論理・表現については、1、2年次とも昨年度は啓林館を採択しておりましたが、論理・表現Ⅰに関しては、多様なコミュニケーション活動としてのプレゼンテーションや、ディスカッション等に対応できる構成になっておりまして、様々な場面、状況、こういったものとリンクすることで、文法、語法、語彙なども深く理解し、表現できるように工夫されていることから、変更することといたしました。現在、本校では、ALTのティームティーチングを週1回行っておりまして、授業展開上、最適であると判断し、教科書を変更いたしました。音楽については昨年度の音楽之友社から教育芸術社に変更しました。美術については、それぞれ特徴がありまして、美術を学習するうえで、非常に事細かな視点から、教科書の記載がありまして、学習するうえでただ単に絵を描くだけではなく、絵を描くにあたっての注意点や考え方を含めて記載があることから、今回も、このようにすることといたしました。

鶴岡教育長 学年の特徴及び内容はもとより、昨年使用した教科書でもあったということですね。分かりました。

それでは、他にご質問もないようですので、議案第177号「令和7年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決とします。

議案第178号 令和7年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第178号「令和7年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」、稲毛高等学校長、説明をお願いします。

工藤稲毛高等学校長 議案第178号「令和7年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものです。

参考資料の「令和7年度使用教科用図書選定理由書 千葉市立稲毛高等学校」をご覧ください。

めくっていただき、1ページ「教科用図書の選定方針」になります。「1 本校の実態及び重点目標」ですが、本校は、豊かな国際感覚を身に付けたグローバルリーダーを育成することを

目的とし、(1)自分たちの伝統文化を理解する姿勢を持つこと、
(2)外国の伝統・文化を理解する姿勢を持つこと、(3)自らの考えや意見を発信し、具体的に行動することができる力を養うことを柱として教育活動を行っています。

特に重点目標として、国際教育を推進するにあたり、生徒の基礎学力の定着を図り、学習意欲を高揚させるための取り組みを行うこととしております。

具体的には始業前の朝学習や課題等による家庭学習の推進、さらには、授業や学校行事等で学習成果を積極的に発信するプレゼンテーション活動の充実に取り組んでいます。

続きまして、「2 本校に求められる教科用図書の特色」ですが、普通科では(1)各教科ともデータ、図、写真等がバランスよく配列されており、言語活動へのアプローチも充実した内容となっていること、(2)英語では様々な分野の話題がバランスよく取り上げられ、語彙や文法も充実していること、外国人講師とのティームティーチングにおいて、発信活動のしやすい内容であること、速読、精読等、目的に合わせて学習を進められること、英語力4技能の伸長を測定することに適した構成となっていることが挙げられます。

また、国際教養科では、ただいま申し上げました共通科目に加え、専門科目の特色を生かすことができる高度な表現活動がしやすい題材や表現を取り扱っているものとしています。

次に、「3 教科用図書の選定基準」についてですが、学習指導要領の教科・科目の内容を十分に考慮し、本校生徒一人ひとりの実態を踏まえることや本校の教育目標に照らし合わせ、適切であるかなどを基準としております。

次に、2ページにあります「教科用図書選定の経緯」です。本年4月5日に教科書選定委員会委員を委嘱し、同日第1回会議を開催し、その後3回にわたる会議を受け、選定作業を終了しています。

3ページ、様式1「教科用図書選定理由書」になります。第2学年、第3学年にあたります。地歴公民における歴史総合、そして英語における英語コミュニケーションⅡ並びに論理・表現Ⅱ及びⅢを除き昨年度採択したものとすべて同じ教科書を選定しています。

その変更した歴史総合並びに英語コミュニケーション、論理・

表現Ⅱ及びⅢの選定理由についてです。

歴史総合については、資料3ページ 様式1の上から5段目にあります山川出版社の「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」に変更しています。豊富な資料の掲載、資料に関する問いも記載され、生徒のよりよい思考活動が期待されます。また、現代の諸課題にも様々な視点からアプローチしており、多面的・多角的な視野での学習につながるものがあげられます。

また、英語コミュニケーションⅡにおいては、資料5ページ上から3段目にある啓林館の「E L E M E N T E n g l i s h C o m m u n i c a t i o n Ⅱ」に変更しています。第2学年が使用するものであり、第1学年においてこの啓林館の「E L E M E N T E n g l i s h C o m m u n i c a t i o n Ⅰ」を使用しており、学年が上がり引き続き、Ⅱでも使用するものです。概要把握に最適な本文見開き構成、自分の言葉で語るリテリング、各レッスンのテーマに沿った発信活動により、4技能5領域を総合的・統合的に高められ、語彙の英英定義や速読用英文、要約文なども授業で活用しやすく、生徒が「伝えたい」と思うような魅力的でオーセンティックな題材にこだわって編集されています。また、アメリカ英語だけでなく、イギリス英語対応の題材も収録され、補助教材も充実していることがあげられます。

論理・表現Ⅱ及びⅢです。資料5ページ 上から5, 6段目にある啓林館の「V i s i o n Q u e s t E n g l i s h L o g i c a n d E x p r e s s i o n Ⅱ A c e」及び「Ⅲ」に変更しています。同「Ⅱ A c e」は、論理的な文章を書くための解説や例文が多数収録され、確かな文法力・表現力をもとに、さらに深い発信力を育成することを目的として構成されており、レッスントピックに関する「聞く」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」などの統合的で発展的な活動が充実しています。基本例文や語彙の一覧、英語表現集、パラグラフの論理パターン一覧などの付録も豊富で、授業で活用しやすいことがあげられます。

「Ⅲ」は、リーディング及びリスニング導入によるレッスンがそれぞれ十分に収録されており、メールや新聞、雑誌記事、文献、講義、ウェブサイトなど、多様なメディアを用いた資料を分析することにより情報処理能力を養うことができ、「書く」ことに重点を置きつつ、様々な発展的・実践的な発信活動を各レッスンの

目標として編集されています。また、導入から発展的活動までのステップや支援が充実していることがあげられます。

このほかの教科、科目についても、教科用図書の選定基準に基づき、教科書選定委員会で協議し、選定しているところです。

以上で説明を終わります。よろしくお願いします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 英語表現に関してお伺いしたいのですが、数年前に、英語教材に関して、一度いいずな書店に変更されたと思うのですが、その際、確か、外国人講師から見て、より自然で高度なコミュニケーションが行いやすいという説明があったかと思うのですが、今回、再び啓林館に戻された理由というのを教えてください。

工藤稲毛高等学校長 ありがとうございます。いいずな書店の「be English Logic and Expression」という教科書を用いておりました。こちらの教科書は3ユニットのレッスン構成やマークを使用しているもので、非常に分かりやすいという面もありました。今回、変更する啓林館「Vision Quest English Logic and Expression II Ace」及び「III」は、論理的な文章を書いたり、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどを通じて、英語をさらに深い発信力強化につなげるための内容であったりですとか、補助教材が充実しており、本校の2年生、3年生に適するものと考えております。

鶴岡教育長 他にご質問もないようですので、議案第178号「令和7年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおりと可決とします。

議案第179号 令和7年度使用千葉市立中等教育学校（後期課程）用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第179号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校（後期課程）用教科用図書の採択について」、稲毛国際中等教育学校長、説明をお願いします。

工藤稲毛国際中等教育学校長 議案第179号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校（後期課程）用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものです。

参考資料の「令和 7 年度使用教科用図書選定理由書 千葉市立稲毛国際中等教育学校」をご覧ください。

選定方針と選定の経緯につきましては、議案第 178 号、「令和 7 年度使用 千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」と同様の内容になりますので、ここでは割愛させていただきます。なお、稲毛国際中等教育学校（後期課程）については、高校第 1 学年にあたる中等教育学校第 4 学年についてとなります。

3 ページ、様式 1 「教科用図書選定理由書」になります。

昨年度、高校第 1 学年で採択したものと、国語における「現代の国語」及び「言語文化」、地歴公民における「歴史総合」、並びに外国語における「英語コミュニケーションⅠ」及び「Ⅱ」を除き昨年度の稲毛高等学校で採択したものとすべて同じ教科書を選定しています。

変更した教科書の選定理由を述べていきますが、歴史総合は、先ほど稲毛高等学校の選定において述べましたので、国語と外国語について述べます。

現代の国語ですが、資料 3 ページ 様式 1 の一番上にある三省堂の「新 現代の国語」に変更しております。現代文では、評価の定まっている基本的な教材と、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した教材が揃っております。生徒の興味・関心を引き起こし、自己の主体的問題に取り組めるよう社会性のある作品があります。評論教材では、生徒にとって身近な話題を扱った親しみやすい作品が取り上げられていることがあげられます。

言語文化ですが、資料そのまのページの上から 2 段目にある数研出版の「言語文化」に変更しています。古文では、物語に重点を置きつつ古典としての価値のある作品がジャンル・時代ともバランスよく入っています。作り物語・歌物語・歴史物語・軍記物語等が取り上げられ、より深く古文を読み味わうため随筆・評論・コラムなどを単元の後に置いてあります。小説教材は、現代的な内容の作品と教育現場で評価の定まっている作品がバランスよく入っていることがあげられます。

そして、英語コミュニケーションⅠ及びⅡです。資料 4 ページ 様式 1 の上から 3, 4 段目の三省堂の「CROWN English CommunicationⅠ」及び「Ⅱ」に変更しております。同「Ⅰ」では、生徒の思考力と探究心を育む、時代を

捉えた深みのある題材と言語学習者に親切的紙面構成により、主体的な取り組みや学びへ向かう姿勢を支援するのに適した教材です。また、4技能5領域の力をバランスよく伸ばすための言語活動や発展的な活動が多数用意されています。題材資料や写真など、授業を活性化させる素材も豊富です。読解力伸長のため、題材に関連した英文が各課に配置され、英文の量も充実しています。

同「Ⅱ」は、英語コミュニケーションⅠを踏まえ、系統的な指導ができようになっており、身近な話題から社会的なテーマ・抽象度の高い発展的なテーマまで、幅広い分野の題材を多様な形式で構成しています。また、グローバルリーダーを育成するという本校の教育方針に合致した内容も扱っています。4技能5領域の力をバランスよく伸ばすための言語活動や発展的な活動が豊富に用意されており、デジタル教材・サービスも充実していることがあげられます。

このほかの教科、科目についても、教科用図書の選定基準に基づき、教科書選定委員会で協議し、選定しているところです。

以上で説明を終わります。よろしくをお願いします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

ご質問もないようですので、議案第178号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校(後期課程)用教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおりと可決とします。

議案第180号 令和7年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第180号「令和7年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」ですが、まず、教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長からその概略の報告をお願いします。その後に調査結果についての説明を教育指導課長からお願いします。

秋幡教育次長 議案第180号、「令和7年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

学校教育法附則第9条の規定による教科用図書については、教育委員会会議において決定された「令和7年度使用義務教育諸学

校用教科用図書の採択方針」に基づき、本年6月5日に第1回千葉市教科用図書選定委員会を開催して、教科用図書専門調査委員会を設置するとともに、専門調査員を3名任命し、教科用図書選定に係る調査研究等を行ったところです。

また、その調査研究の報告をもとに7月10日に第2回千葉市教科用図書選定委員会を開催し、「令和7年度使用教科図書調査研究報告書」をとりまとめました。

報告書の内容につきましては、教育指導課長より説明します。
八斗教育指導課長 続いて調査結果についてご説明します。特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の教科用図書については、文部科学省検定済教科用図書及び文部科学省著作教科用図書の当該学年用を使用することが原則となっていますが、児童生徒の実態により適切でない場合は学校教育法附則第9条の規定により一般図書を選定することができます。

2ページから5ページにつきましては、児童生徒の該当者はありません。拡大教科用図書につきましては、小学校通常学級で4人、中学校通常学級で1人、中学校特別支援学級で2人が使用しております。

特別支援学校及び特別支援学級で学ぶ児童生徒は、発達段階が様々であることと障害の特性も多様であることから、できるだけ個々の実態に対応できるようにするため、文部科学省検定済教科用図書、文部科学省著作の特別支援学校用教科用図書と併せて学校教育法附則第9条の規定による一般図書を採択していただきたいと考えます。観点については、9ページをご覧ください。

続いて10ページから13ページをご覧ください。県教育委員会から示された一般図書の一覧です。備考欄に※印が付いている図書が、今年度新たに県から示された図書です。千葉市の欄の「○」は昨年度に引き続き選定するもの、「◎」は今年度新たに採択を希望する図書です。

では、採択を希望する137冊についてご報告します。

はじめに10ページの国語です。

県教育委員会から45冊示されましたが、そのうち35冊を選びました。

すべて昨年度から継続して選んだ図書であり、内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれているものです。

新規に選んだ図書は、今年度、県教育委員会で選定されたもの

がなかったのではありません。

続いて11ページの算数・数学です。

県教育委員会から26冊が示されましたが、そのうち18冊を選びました。

昨年度から継続して選んだ図書は16冊であり、内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれているものです。

新規に選んだ図書は、今回、県教育委員会で新たに選定された2冊です。

31ページをご覧ください。

「三省堂 こどもかずの絵じてん」は、主に1から10までの数概念をイラストと数字を対応させながら学習できるものとなっています。時間やカレンダー、お金などを取り上げ、実際の生活に活用できるように工夫されています。イラストや写真が豊富で親しみやすく、理解しやすい内容となっています。

「ブルーナのアイディアブック ミッフィーの1から10まで」は、数字がイラストと共に大きく書かれています。日常生活の様々な場面が取り上げられており、身近な動物や乗り物、道具が登場します。数字の読み方や数え方、単位の学習を楽しく行うことができるように工夫されています。

続いて、12ページの生活・社会です。県教育委員会から34冊が示されましたが、そのうち28冊を選びました。

昨年度から継続して選んだ図書は27冊であり、内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれているものです。

新規に選んだ図書は、今回県教育委員会で新たに選定された1冊です。

41ページをご覧ください。

「からだのやさしいえほん1 からだのなかはどうなってるの？」は、体の部位の名称や男女の違いについて、基礎的な仕組みを学ぶことができます。

骨格や呼吸、消化など5つの疑問に絞って説明が書かれており、読みやすくなっています。「どうして」という問いかけのページをめくると、次のページにはその答えが書かれており、好奇心や探究心がわく工夫がされています。

なお、一覧表12ページのNo.34「あっ！そうなんだ！わたしのからだ」も今年度新たに県教育委員会で選定された図書ですが、使用されている言葉やイラストがどの発達段階を対象として

いるのか不明瞭なため、児童生徒が使用する教科用図書としては扱いづらいと考え、採択は希望しません。

続いて、13ページの職業・家庭です。

県教育委員会から23冊示されましたが、そのうち20冊を選びました。

すべて昨年度から継続して選んだ図書であり、内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれているものです。

新規に選んだ図書は、今年度、県教育委員会で選定されたものがなかったのではありません。

最後に、13ページの外国語です。

県教育委員会から9冊示されましたが、その全てを選びました。

すべて昨年度から継続して選んだ図書であり、内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれているものです。

新規に選んだ図書は、今年度、県教育委員会で選定されたものがなかったのではありません。

以上で、特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書についての報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

大山委員 ご説明ありがとうございました。

今回、新規に採用します、「やさしいからだのえほん1」について伺います。数字で1となっていますが、2や3など、ほかにも教材はあるのでしょうか、それとも1だけで完結するのでしょうか。こちらの内容が、「ドキドキした」だとか、子どもたちに分かりやすい内容でしたので、ほかにもあって、1だけを採用しているのか、分かりましたら教えてください。

中村教育支援課指導主事 「やさしいからだえほん」は1のみ採択となっています。この後2、3とどこまで続くかという調査はできておりませんが、1という中で、呼吸や身体、服装などの要素がたくさん含まれているということで、1のみで、県から示されているものとなっております。

鶴岡教育長 他にご意見、ご質問等ございませんようですので、議案第180号「令和7年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

鶴岡教育長 続いて、議案第181号及び議案第182号の審議を行います
すが、ここで職員の入替えをお願いします。

＜職員入れ替え＞

《国語》

議案第181号 令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について

議案第182号 令和7年度使用千葉市立中等教育学校（前期課程）用教科用
図書の採択について

鶴岡教育長 会議を再開いたします。

議案第182号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校（前期課程）用教科用図書の採択について」は、議案第181号「令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について」の議決により決定した教科用図書を選定することとして、第6回定例会において、採択の方針を議決しております。

よって、議案第181号及び議案第182号につきましては、一括して審議、議決を行うことといたします。

なお、円滑な議事進行のため、説明等の表現につきましては、特段の断りがない限り、議案第181号「令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について」に統一して行いますので、ご了承願います。

それでは、議案第181号「令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について」審議を行います。

まず、教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長から概略の報告をお願いします。

秋幡教育次長 議案第181号「令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について」、及び議案第182号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校（前期課程）用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

議案第181号の中学校用教科用図書については、教育委員会会議において決定された「令和7年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針」に基づき、本年6月5日に第1回千葉市教科用図書選定委員会を開催して、教科用図書専門調査員会を設置するとともに、専門調査員を58人任命し、教科用図書選定に係る調査研究等を行ったところであります。

また、その調査研究の報告をもとに7月10日に第2回千葉市教科用図書選定委員会を開催し、「令和7年度使用教科用図書調

査研究報告書」をとりまとめました。

報告書の内容につきましては、教育指導課長より説明します。
鶴岡教育長 次に、教科ごとの調査研究の報告に先だち、決定の方法についてお諮りします。

全ての教科用図書につき、無記名投票により、これを決定したいと存じます。

なお、投票の順番は、文部科学省作成の教科書目録に記載されている種目により、国語、書写、社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）、地図、数学、理科、音楽（一般・器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭（技術分野・家庭分野）、外国語、道徳とします。

投票の方法ですが、各委員に配付いたします投票用紙に、無記名で、採択すべきと考える教科用図書の1つに「○」を記入し、投票してください。

本日の出席者は5人ですので、過半数の3票を獲得した教科用図書を採択することと決定したいと存じます。

過半数に達しなかった場合は、改めて意見交換等協議の上、得票のあった出版者によって、3回目まで繰り返し投票を行います。

ただし、過半数に達しないものの、2者が2票ずつ得票をしている場合には、その2者によって再度投票を行うこととします。

3回の投票により 決しない場合は、その際に、決定方法について再度協議することとしたいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 それでは、そのように取り扱うことといたします。

はじめに、「国語」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 それでは、調査結果について報告します。なお、文部科学省作成の教科書目録の巻末に記載されている発行者順にご説明します。

中学校国語について報告します。

本市の生徒の学力については、令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果から、ほとんどの領域において全国平均正答率を若干上回っており、概ね良好な状態にあります。が、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解できるようにすること」、「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問できるようにすること」などで課題があります。従って、原因と結果、

意見と根拠など、話や文章の中に含まれている情報と情報との関係について理解したり、話し手や書き手の意見を整理して、自分の考えをより深めたりすることができる授業づくりが求められます。

観点については、紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応（１）では１年３２ページのように、各教材、作品の後ろに手引きのページがあり、「目標、見通す、つかむ、読み深める、考えを持つ、振り返る」と、単元を学習する流れを示しています。また、内容（６）では２年３０６ページのように、１年から３年まで、各領域の「言葉の力」と「学びを支える言葉の力」が一覧表になっており、学習の系統性を分かりやすく示しています。

次に三省堂ですが、学習指導要領への対応（３）では３年１５６ページのように、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」における既習事項を用い、ＳＮＳや広告といった社会生活の課題を取り上げて情報の信頼性を確かめています。また、内容（１）では１年１６ページのように、「思考の方法」が３学年すべてに記載されており、基礎的・基本的な知識及び技能の一つとして、明確に位置付けています。

次に教育出版ですが、内容（１）では１年１９２ページのように、文字以外の非連続型テキストと呼ばれるグラフや図と文章を関連付けて読みながら、考える力や目的に応じて判断する力・表現する力を養える構成になっています。また、内容（６）では３年３１７ページのように、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の学習に役立つ「学びナビ」が一覧となっており、全体を見通すことができるようになっています。

最後に光村図書ですが、内容（５）では１年２６７ページのように、「語彙ブック」がついており、ここでは、「言葉の宝箱（小学校）」が見ることができるようになっています。また、内容（６）では３年２４２ページのように、二次元コードをからＣＢＴ形式の問題に取り組むことができるようになっており、「個別最適な学び」や「ＩＣＴを活用した学びの充実」に合致するものになっています。

以上で国語の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

大 山 委 員 どの出版者も、新しい学習指導要領になり、2回目なので、十分対応されて、充実された内容になっていると思いました。千葉市の課題である、言語能力が発揮できているかと、社会生活における、思考力、想像力が生かされている内容かということに注目させていただきました。同じ題材が多くの教科書で取り上げられていましたが、言葉の説明や、どこに注目するかは各社によって違っていましたので、その辺りで特徴がありましたらご説明をお願いします。

竹治教育指導課指導主事 まず、本市の課題についてですが、先ほども申し上げたとおり、本市の課題は3つあります。まず、意見や根拠など情報と情報との関係について理解すること、それから、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること、それから、古典等の伝統的な言語理解に関することに課題があります。この内容に関してですが、まず、情報に関して、三省堂については、グラフや図表などの情報と、文章等との関連をつけたページがあります。その中で、情報の伝え方に関する単元が記載されております。また、教育出版においては、日常的に接するマスメディア等に関する教材と、論理的思考力を高めるための単元があります。それから、古典については、東京書籍を除く、各教材に二次元コードが付いており、解説動画だけでなく、同じ教材の他の章段も収録されております。

大 濱 委 員 漠然とした質問になってしまいますが、千葉市の生徒の課題で、「国語の勉強が好きですか」という問いに対し、肯定的な回答率が全国平均を下回ったということですので、これに対し、国語を肯定的に受け止められるような配慮がされている出版者はありますか。

竹治教育指導課指導主事 各出版者において、主体性を構築するために、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた内容になっております。例えば、先ほどの説明にあったように、光村図書は、「書くことのミニレッスン」それから、「国語の力試し」等で、学習状況を自ら確認できるように、C B T形式によって自己採点が可能で、自己調整ができるコンテンツが収録されております。また、三省堂に関しては、読み方の視点が非常に分かりやすく説明されており、レポートの書き方例が複数掲載されており、主体的に学べるように工夫がなされております。

鶴岡教育長 学習指導要領を確認しましたが、人との関わりの中で、思いや

考えを伝え合う力を高めることが目標の一つになっており、本市が大切にしているところだと認識しております。そして、先ほど課題について説明がありましたが、自分の考えをより深めたりすることができる授業づくりが求められると言っております。

そこで、言語活動がやはり重要になってくるのかなと思うのですが、「話す力、聞く力」を付ける点で各社の特徴を教えてください。

竹治教育指導課指導主事 まず、東京書籍については、話し合い活動に生かせる話し方の視点や、合意形成に向けた話し合い方が示されており、教科横断的な取組みになります。また、三省堂に関しては、言語活動例の中で、他教科とのつながりがあるような作りになっておりまして、話す、聞くだけではなく、「書く、読む」にしましても、そこを踏まえた内容が記載されておりました。

小 西 委 員 質問ではなく、意見になりますが、今回、全教科に関して、千葉市が全国に比べてICT活用に課題がありますので、よりICT活用しやすいデジタルコンテンツになっているかどうかについて重視して見させていただきました。その中で、デジタルコンテンツに関しては、私は三省堂の「デジタルドリル」や解説動画、それと光村図書のCBT形式への対応した課題については、大変工夫されていると感じました。

あとは、千葉市の課題に、学習過程の明確化があり、この点も重点的に見させていただきましたが、これはどの出版者も、切り口は違えど大変充実していると思いました。特に、教育出版の「学びナビ」には、大変丁寧な説明がありましたので、子どもたちが文章を理解するのに大変分かりやすいと思いましたし、光村図書は本を読んだ後の課題と聞き方を、子どもたちが自分たち自身で考えを深めやすいように、より丁寧に導いてくれているなと思いました。ただ、教育出版は、文章を読む前段階での指示が明確で丁寧になっている分、未知の文章を読んだ際のワクワク感や子どもたちなりのピュアな印象を少し阻害してしまう部分があるのではないかというのが個人的には気になりました。その他、全体的に見て、光村図書出版が語彙や漢字をより丁寧に扱っている点であるとか、資料の配置、色合い、歴史、美術などほかの教科との関連性の仕方がとても上手だなというふうに思いまして、全体的にバランスがいいのが光村図書出版かと思います。

高 津 委 員 4者とも文芸作品も含めて読み応えのある内容とっております。

ます。今、みなさんから色々な意見がありましたが、私は光村図書あるいは三省堂がいいかなと思っております。特に、光村図書は、1年生の6ページから8ページに学習の見通しを持とうというところで、1年生に対し、見通しを意識して学習を促しているように見受けられました。

国語学習は基本的な学び方、これは国語だけではないのですが、音読をするとき、発表するときには、こういう態度で取り組んでほしいという流れが書いてあり、中学校での学習がスムーズにできるように工夫されているように感じました。

今、小西委員から発言がありましたICTについて、千葉市は活用を進めておりますが、光村図書は巻末に「ICT活用のヒント」というものがあるので、これを主体的に活用できればいいかなと思いました。

違った観点で、国語の目標に「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」とあります。これは他教科の学習はもちろんですが、社会生活をする上でも、国語力というのが必要だと思います。それを鍛える基本は、私は読書が大きいと思います。4者、3年生で比べたのですが、3年生の教科書では、多くの図書が紹介されております。数えましたら、光村図書が一番多かったです。その中で一つ紹介させていただきますが、3年生の190ページの「天、共に在り」です。これは、ご存じ中村哲医師ですが、アフガニスタンで、非常に厳しい中、医師というよりも、何とかしたいということで、厳しい状況の中で、当時、水を引く工事をしていました。非常に厳しい状況が書かれているのですが、その最後の終わり方が「全線開通だ」、これで終わっております。おそらく、こんなに苦労して水を引いたので、この後、人々の生活がどのように変わるのだろうか、この先を知りたいなと多くの生徒たちは思うのではないかと私は思います。そして、本文末に、「続きはこちらで」というのがあります。そして、「天、共に在り」が紹介されています。おそらく、紹介されたとき、本文を読んだとき、この本を読んでもみようと思う生徒が出てくるのではないかと思います。上手な本の紹介の仕方だと思います。光村図書は1年生で3つ、2年生で1つ、3年生で3つ紹介されています。それから、巻末の資料編の前に、先ほどすでに出ましたが「語彙ブック」が二次元コードであります。昨年、小学校の教科用図書を採択した際に話題となりました。

「言葉の玉手箱」とつながりがあり、生徒が作文や意見書を書いたり、あるいはこれを活用して語彙力が高まってきたら日常生活の中でコミュニケーション能力が付くかと思いますので、「語彙ブック」が素晴らしいと思いました。

次に三省堂ですけれども、3年生の古典を見させていただきました。各者とも、おくのほそ道、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集を取り扱っております。各者それぞれ資料を付けて説明・解説を上手にしております。その中でも、三省堂が分かりやすいと思いました。和歌のところでは、和歌の技法、それぞれの歌集の解説、また漢詩も取り上げて、原文の読み、現代語訳、返り点に関しての資料など、生徒に丁寧で分かりやすく教えております。また、それぞれの本文の終わりに、「私の本棚」で本を紹介して、興味のある生徒はまた先の文章を読むと思います。このように、三省堂は古典に力を入れているなと思いましたので、私は今述べた2者がいいと思います。

鶴岡教育長 私からは、感想を含め意見表明です。

まず、学びの流れという部分では、まず、光村図書が「学びへの扉」で学びの流れが分かりやすく見通しを持って取り組めるように書いてあったように感じます。そして、多様な言語活動、そして読書活動の充実については秀でていていると思います。

教育出版については、「学びナビ」「道しるべ」「振り返りの設定」で主体的、対話的で深い学びを実現できるよう配慮されており、説明にもあったように、話すこと、聞くことの学習に役立てるように構成されていると感じました。本市の課題でもある、思考力の問題については、一番深く取り組んでいるものと認識しました。

三省堂につきましては、「学びの道しるべ」という、見開きの2ページにしており、丁寧に学習の流れが明確になっているかなと思いました。特に、新出漢字の一覧を確認したのですが、これは三省堂が一番丁寧に書かれていると思いました。私からは以上です。

そのほか、よろしいでしょうか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「国語」の教科用図書を決定します。

はじめに、出版者の読み上げをさせていただきます。読み上げ

につきましては、文部科学省作成の教科書目録に記載されている出版者の番号順で行います。以降の教科につきましても、同様とさせていただきます。

それでは、採決に移ります。

「国語」の出版者は、「東京書籍」「三省堂」「教育出版」及び「光村図書出版」の4者です。

この4者から投票により決定いたします。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

投票があった出版者のみ報告します。以後同様とします。

「三省堂」1票

「教育出版」1票

「光村図書出版」3票

よって、「光村図書出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「国語」の教科用図書は、「光村図書出版」と決定しました。

《書写》

鶴岡教育長 次に、「書写」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校書写について報告します。

本市の生徒の学力については、国語科において、基礎的・基本的な学力の定着状況は県平均では上回っているものの、その差は年々縮まっている状況です。また、本市の生徒の書写力については、技能や意識が高い生徒がいる一方、そうでない生徒も多いといった傾向にあり、その差に課題があります。従って、書写の基礎・基本を重視し、すべての生徒の最適な学びのために教材が効率的に配置され、生徒が主体的に考え、日常に生かす書写力を身に付けることが必要であり、紙面にあげたような特色を持った教科用図書が求められます。

観点については、紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、学習指導要領への対応（1）では1年

40ページのように、手紙やポスターの書き方など、学んだことを生活の中で活用できるよう身近な題材を用いた話し合い活動を取り入れ、深い学びの実現に配慮しています。また、内容（1）では1年24ページのように、楷書と行書を比較し、文字を整えて書く汎用的なポイントをまとめ、書写の原理・原則を確実に習得できるよう工夫しています。

次に、三省堂ですが、学習指導要領への対応（1）では1年40ページのように、毛筆の学習後に硬筆でも繰り返し練習することで、学習内容を確実に習得できるよう配慮しています。また、内容（1）では1年32ページのように、行書の特徴について楷書の毛筆文字と比較し、文字の印象についての理解を視覚的に促す工夫をしています。

次に、教育出版ですが、学習指導要領への対応（1）では1年10ページのように、学習手順を明確にし、実社会での活用を視野に入れながら具体的な手立てや例を示すことで、主体的・対話的で深い学びの実現に配慮しています。また、内容の（3）では1年11ページのように、話し合い活動をとおした学び方が書写における学習用語とともに明示され、生徒がイメージしやすいよう工夫しています。

最後に、光村図書ですが、学習指導要領への対応（1）では1年34ページのように、「考えよう・確かめよう・生かそう」の3ステップをすべての教材に取り入れ、学習の目標や進め方、重点を明示しています。また、内容（2）では1年57ページのように、二次元コードが大変充実しており、特に筆使い動画は、上からと斜めからのアングルで用意されるなど工夫されています。

以上で書写の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

大山委員 書写は日本独特の文化ですので、かな・漢字の書き方と理解が大切だと思っております。そういう意味ではいずれも類似している内容でしたので、悩みました。質問ではなく、意見を申し上げます。まず、東京書籍に関しましては、生徒の身の回りにある文字の比較で、より身近な内容になっていると思いました。「生活に彩を」のタイトルで、学習したことを生かすアイディアは非常に分かりやすかったです。三省堂は楷書と行書の使い分けと、墨とすずり、紙についての説明が大変丁寧でした。教育出版は、手のひらを筆に見立てた動きの取入れが大変新鮮で、筆が苦手

な生徒にも分かりやすいと思います。小学校との違いですが、毛筆だけではなく、硬筆と毛筆の活用の仕方が大変丁寧にされておりまして。光村図書はデジタルコンテンツの豊富さはやはり一番すごいと思いました。楷書と行書の使い分けを分かりやすく説明されていたと思います。

大 濱 委 員 最近、どうしても自筆で書くことが少なくなってきており、そういう中で、自筆で手紙をいただくと、返事を自筆で書くようにしております。年賀状についても、自筆で書かれているとその年賀状は印象深く感じます。そういったところで、自筆で書く機会は減っていますが、書くことの楽しさや必要性は大事だと思います。この点について、各者の特徴的なところがありましたら教えてください。

石戸谷教育指導課指導主事 各出版者とも、他教科や日常的な学びに関して書くことができるようになっていきます。例えば、日常生活、社会生活に生かすことのできるという観点においては、教育出版では、願書などの例があります。また、光村図書は送り状の例が記載されております。

小 西 委 員 質問ですが、今回、光村図書は「書写ブック」というノートのようなものがついており、三省堂も中に書き込む内容が多く、書いて覚えさせようというような感じがしました。今は教育出版を使用していますが、教科書の中に書く部分が多い方が、子どもにとって使いやすいとか、先生が教えやすいなど、そういったことはありますか。

石戸谷教育指導課指導主事 記入するところがあるということですが、硬筆の方も中学校で大変重要となっていると報告を受けております。ですので、硬筆、行書を習ったあとに、またそれを硬筆として生かすという流れは生徒にとっての学びの流れとして有用と報告を受けております。

小 西 委 員 授業の中で、教科書以外にノートなどは使われているのですか。

石戸谷教育指導課指導主事 書写の学習においては、ノートを活用して学ぶというよりは、教科書での学びを重視しているというように報告を受けております。その中で、発展的なものとして、例えば、他教科のノートを書くときに使っていく、または、先ほど説明した日常生活、社会生活に生かすという点で実際に活用していくという点において、活用を広げているということで、ノートについては、例

として美しく書くということを示している教科書もあります。

鶴岡 教育長 中学校の書写は、やはり行書というのが、新たな学びというところで、大切にしなければいけないところかと思いますが、基本の点画や筆遣いとかで特徴や工夫している出版者があれば教えてください。

石戸谷教育指導課指導主事 どの出版者も基本点画については示されております。例えば、東京書籍の10ページ、教育出版の17ページでは穂先の位置が移動する、折れや止めなども見開きを使いながら丁寧に説明されております。

高津 委員 それぞれの出版者がいいところを記載していると思います。私は教育出版がいいと思っています。一つ、ここだけ、AB版というのですか。大きな横幅がある版で、やはり写真が大きくなっていたり、あるいは8ページから9ページに、姿勢と用具の使い方。これは小学校の時にも出てきたと思いますが、見開き1ページで大変見やすく書かれております。また、16ページから17ページには基本的な筆遣いのページですが、これも見開き2ページで筆圧の違いは「細い」、「中くらい」、「太い」の3種類の筆が分かりやすくイラストで表現されていると思いました。それから、直接的にはこの書写の内容ではないのですが、表紙を開けますと、「目的にあわせて書こう」と中学生が楽しく活動している写真があります。私も昔中学校で勤めていたので、ここに限らず、教育出版は色々な場面で中学生が登場し、活動している写真がたくさん出てきます。同じ中学生が見て学びますから、親しみを感じるのではないかというふうに思いました。

他の出版者にもあるかもしれませんが、特に教育出版は、お手本の半紙には、必ず中央線が入っています。中学生が書くとき、必ず半分に折ります。それでバランスを取るということで、これは非常に参考になるなと思って見ていました。これは独特の目線になっているなと思いました。

あと、これは面白いと思ったのが、東京書籍ですが、10ページから11ページ、基本の点画の書き方で、「とん、すっ、すう、ぴたっ」と子どもの感覚で記載されており、面白いと思いました。

小西 委員 私も意見ですが、高津委員と同様に、教育出版がいいと思います。高津委員がおっしゃられましたが、行書が大変丁寧で分かりやすいです。個人的には、教育出版の表紙が大好きなのですけれども、教育出版は歴史上の人物をもとにした内容ですとか、歴史

的なコラムであったり、全般的に文字の歴史を丁寧に扱っている
というような印象を持っております。本市ももうすぐ「千葉開府
900年」を迎えますし、子どもたちにも、書写という切り口か
ら歴史に興味を持ってもらいたいという意味も含めて教育出
版にしたいと思います。

鶴岡教育長 楷書と行書の要点が、一目で分かるように工夫されているの
は、私は三省堂かと思いました。行書については、今お二人から
あったように、筆遣い、筆の動きが丁寧に書かれているのは教育
出版かなと思いました。

あと、別の視点を見てみたのですが、毛筆にこだわりがちな
が、実は硬筆も大事な学びでありまして、毛筆、硬筆の部分で、
伝えたいことを効果的に伝えるためには、筆記用具を使い分ける
のも大事なんだと伝えるページを大切にしているのが、東京書籍
と教育出版だったと思っています。意見でございます。

他、よろしいでしょうか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度
に、本市立中学校において使用する「書写」の教科用図書を決定
します。

それでは、採決に移ります。

「書写」の出版者は、「東京書籍」「三省堂」「教育出版」及
び「光村図書出版」の4者です。

この4者から投票により決定いたします。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、報告をします。

「教育出版」5票

よって、「教育出版」が過半数を得ましたので、これを採択す
ることと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において
使用する「書写」の教科用図書は、「教育出版」と決定しました。

《社会・地理的分野》

鶴岡教育長 次に、「社会・地理的分野」に係る調査結果について、教育指
導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校社会、地理的分野について報告します。

本市の生徒の学力については、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、県平均正答率を下回っている状況です。地図や表、グラフなどの複数の資料を読み取り、地域的特色を把握することに課題があります。

従って、本市生徒には、諸資料を多面的・多角的に考察し、必要な情報を読み取る活動を意図的に組み込む必要があります。また、I C Tを効果的に活用し、資料と既習の社会的事象を結び付けて考えさせるような場面設定を行っていくことや、単元を貫く問いの設定、対話を意識した授業の構成、ねらいを明確にした学習を行うことなどが必要であり、紙面にあげた特色を持った教科用図書が求められます。

観点については、紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応（１）では２３５ページのように、視点のポイントと探究課題を示して、探究的な学びに取り組めるよう配慮されています。また、内容（４）では１６４ページのように、リンクマークを付し、二次元コードから他分野・他教科へのアクセスが可能で、コードは各ページの位置にあり、格納資料も明記されていて、使いやすく工夫されています。

次に教育出版ですが、内容（１）では１３ページのように、「学習課題」を設けて見通しをもたせ、「地理の技」コーナーで技能や表現力が養えるように配慮されています。また、内容の（６）では２８６ページのように、地域の課題や特色をまとめ、地域の方々に意見を提案する活動を設定して、地域社会への参画意識が高まるよう配慮されています。

次に、帝国書院ですが、内容（１）では５０ページのように、学習を見通せる課題を設け、次のページで知識の定着や、思考力、判断力、表現力の育成を促すように工夫しています。また、内容（２）では２３４ページのように、写真から地域を概観する学習活動から入り、単元末のまとめで思考が構造的に深まるように構成が工夫されています。

最後に、日本文教出版ですが、学習指導要領への対応（３）では３ページのように、地理的な見方・考え方について５つの視点を示し、地理的認識を育むように構成されています。また、内容（６）では１６４ページのように、「持続可能な地域をめざして」

のコーナーを設け、調査や意見交換、説明など、様々な学習活動により、深い学びを促すよう配慮されています。

以上で地理の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

それでは、私から質問します。学習指導要領では、地域の諸事情や、地域的特色を理解することが必要だと書いてあります。課題について説明の中で、地域的特色について、読み取ることに課題があるとありましたが、地域的特色を読み取るにあたって、この教科書が使いやすい、活用しやすいなどがありましたら教えてください。

大堀教育指導課主任指導主事 日本の諸地域の扱い方を例に挙げますと、各出版者とも地図、地形図、グラフ、写真等の資料が十分な量配置されております。それをもとに様々な学習活動が用意されておりますので、どの教科書であっても十分な指導はできると思います。なお、身近な地域の調査という單元においては、各者記載がありますが、東京書籍、教育出版、日本文教出版は、まとめ方や発表の仕方を詳細に解説しており、帝国書院については、資源の扱い方を詳細に示しているという特徴があるとの報告を受けております。

鶴岡教育長 続けてですが、今までにないパターンかと思うのですが、帝国書院の128ページを示していただいてよろしいでしょうか。学習指導要領でも、また、本市の課題でもある部分で、地域的特色を読み取る力を付けたいというところがあるのですが、地域的特色を見出すにあたり調査が必要になってくるので、その地域の調査というのを、「技能をみがく」という新鮮なページがありまして、そこで複数ページにわたってこのように地域を調査していくといいというように書いてあるので、ここは大変魅力的かなと思った次第であります。続けて、地理的な質問ですが、領土問題というのはやはり欠かせないと思いますが、この地理的分野においての各出版者の取扱いを教えてくださいましたらと思います。

大堀教育指導課主任指導主事 まず、学習指導要領の解説では、竹島、北方領土について、日本固有の領土であり、それぞれ、現在韓国とロシア連邦に不法に占拠されている。竹島については、韓国に対して累次にわたり抗議を行っていること、北方領土については、ロシア連邦に返還を求めていること、また、尖閣諸島については、我が国固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱うこととなっています。

それを受けまして、4者とも適切な表現になっております。今

申し上げました学習指導要領の解説の言葉のと通りの表現を用いているのが日本文教出版、他の３者は表現を変えて、それぞれ適切に紹介しております。

高 津 委 員 これから採択されて、全国でいずれかの教科書を中学生が使って勉強するわけですが、そのとき、わが千葉市がどのように紹介されているのか、何かしらで取り上げられていると思いますがその点はどうでしょうか。

大堀教育指導課主任指導主事 全国版の教科書ですので、千葉市を特別に記載ということはないかと思いますが、それぞれ、日本の諸地域の関東地方において、近郊農業の部分であるとか、首都圏との交通網について、あるいは幕張新都心などについて触れている部分があるかと思います。あとは、各コンテンツの中にさらに情報等を記載している場合もあるかと思います。

大 山 委 員 各者を比べて意見を申し上げます。

東京書籍については、用語解説が本文中に入っておりまして、検索がしやすく、説明も丁寧になっておりました。教育出版は、クロスワードがついていて、国境を越えて移動する人々の紹介があって、今現在日本でも多くの外国の方が生活しております。実際に日本に移住してきている方たちを掘り下げた紹介が丁寧にされておりました。

帝国書院は、節の振り返りで思考・判断として考えをまとめ、最後に主体的な学びと振り返りをするという例が大変分かりやすかったです。日本文教出版は、地図の活用で、地形図の仕組みと約束のページで地図記号が分かりやすく地域の見比べができるようにされておりました。その中でも、東京書籍が内容的にも充実しているかなと私は思いました。

小 西 委 員 私も意見になりますが、東京書籍、帝国書院どちらも甲乙つけがたいくらい悩んでおります。帝国書院の「アクティブ地理」であったり、「未来に向けて」はいずれもSDGsを大変強く意識した内容になっていて素晴らしいと思いましたし、「アクティブ地理」は対話的で深い学びにつながるような形になっていると思いました。本市の子どもたちは、複数の資料から読み取ることに課題がありますが、東京書籍には「資料から発見！」というコラムがところどころにあります。資料から情報を読み取る練習にとっても良いのではないかと思いますし、「みんなでチャレンジ」というのは対話を意識した授業構成がしやすいのではないかと

思っています。このどちらかで決めたいと思っております。

鶴岡教育長 他、いかがでしょうか。

ご意見、ご質問等ございませんようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「社会・地理的分野」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「社会・地理的分野」の出版者は、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」及び「日本文教出版」の4者です。

この4者から投票により決定いたします。

事務局は、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」4票

「帝国書院」1票

よって、「東京書籍」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

(「異議なし」という声あり)

ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「社会・地理的分野」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

ただいまの時刻は、11時59分です。議事の途中ですが、ここで休憩を挟むこととします。

会議再開は、13時00分とします。

<休憩>

《社会・歴史的分野》

鶴岡教育長 会議を再開いたします。次に、「社会・歴史的分野」にかかる調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校社会、歴史的分野について報告します。

本市の生徒の学力については、主体的に学習に取り組む態度の観点において県平均正答率を下回っている状況です。問題の内容別に見ると、歴史的分野の領域別正答率は概ね良好であるものの、学習すべき歴史的事象が格段に多くなる近代以降では課題が見られます。従って、今後も生徒たちが主体的に学習に取り組む態度の育成を進める工夫及び基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用をより一層図る必要があります。また、一人一台端末等

I C Tを効果的に活用すること、単元を貫く問いや対話を意識した学習過程、様々な思考・表現活動の設定等、単元が機能的に構造化されていることが必要であり、紙面にあげたような特色を持った教科書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、内容の（２）では64ページのように、導入で単元を貫く「探究課題」を設定し、後段の「まとめの活動」では思考ツールを用いて考えを整理し、課題解決につなげるように構造化されています。また、内容（３）では62ページのように、全ての見開き定位置に二次元コードが掲載され、動画やワークシート、クイズなど、様々な学習活動で活用できるコンテンツが豊富に用意されていて、協働的な学び及び個別最適な学びの実現に配慮されています。

次に教育出版ですが、内容の（２）では61ページのように、導入で章の学習を見通す課題が設定され、後段の「まとめのページ」で学習を振り返ることができるよう問いの構造化が図られています。また、内容（３）では、各章の導入ページではリンク集、まとめのページでは振り返りクイズにアクセスすることができます。特に25ページのような「歴史の技」コーナーでは、すべて解説動画がついていて、技能の定着に活用できるよう工夫されています。

次に帝国書院ですが、内容（２）では64ページのように、導入でその時代の人々の営みが大観できるページが設定され、後段で学習活動の振り返りができるように構造化されています。また、内容（３）では26ページのように、導入ページとまとめページに二次元コードが掲載され、ワークシートやNHK for Schoolへのリンクなど、豊富なコンテンツが用意されており、特に、各時代のスタート部分では、イラスト資料を拡大しながら確認することができる工夫があります。

次に山川出版ですが、内容の（１）では、100ページのように、章末にまとめのページを設け、表を使って重要語句が整理できるように工夫されています。また、内容（６）では26ページのように、同時期の世界の歴史に関する内容や資料が充実しており、全体的に歴史的事象の因果関係が重視された記述がされていることと合わせ、高等学校の歴史学習と円滑に接続できるような

配慮が施されています。

次に日本文教出版ですが、内容（１）では６２ページのように、「まとめと振り返り」のページで年表と地図が連携された工夫がなされ、時間軸と空間軸の両面で学習を確認できるように工夫されています。また、内容（２）では６４ページのように、導入のページで単元を貫く問いを設定し、後段の「まとめ・振り返り」のページでその問いを解決して振り返ることができるような構成となっています。

次に自由社ですが、内容（２）では６９ページのように、章の導入で年表と資料により時代を大観でき、後段の章末には思考を促して探究的な学びや協働的な活動ができるページが設定されています。また、内容（６）では１４０ページのように、本文とは違う視点でまとめられたコラムのページを数多く配置し、歴史の知識に奥行きや深みを持たせるように工夫されています。

次に、育鵬社ですが、内容（２）では６４ページのように、章の導入には歴史の流れを大観する歴史絵巻とその時代の特色をピンポイントでとらえる活動が設定され、後段では資料の読み取りを通して時代像をまとめることができるような構成になっています。また、内容（６）では２１９ページのように、正義と責任、自他の敬愛と協力等に取り組んだ先人の事例を紹介し、道徳の学習にも関連するよう配慮されています。

次に学び舎ですが、内容（２）では３６ページのように、「章の扉」では北極を中心にした世界地図が描かれ、その時代の特色を掲載して学習課題を設定し、後段で課題についてまとめたり、絵画から推理したりするなど、探究的な学びができるよう工夫されています。また、内容（６）では１２０ページのように、９者中、唯一ひと回り大きいＡ４の版型で、写真資料等が大きく見やすい紙面となっています。

最後に令和書籍ですが、内容（２）では、４１３ページのように、章の見出しには学習課題が設定され、後段の「まとめの活動」ではディスカッションやディベートなど発展的・対話的な学習ができるよう配慮されています。また、内容（６）では１８ページのように、本文での詳細な記述に加え、豊富な注釈により多くの知識を得ることができるように工夫されています。

以上で歴史の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大 山 委 員 千葉市の学力状況調査の結果を踏まえ、県との比較で正答率が下回っている、「市民革命や欧米のアジアの進出と近代日本」という、その弱いところについて、特徴的な教科書、その辺りに特化している教科書がありましたら教えてください。

大堀教育指導課主任指導主事 もちろん、学習指導要領に則った構成ですので、それぞれの教科書で適切な位置で触れていますが、どうしても、ここの部分は、なかなか成績的に難しくなっているのは、世界史とのからみ、日本史を学んで世界史を学習し、また日本史に戻るというところ、それから、戻った日本も幕末から近現代というところで非常に扱う歴史的事象が多くなって、生徒からすると覚えなくてはならない事柄が多くなるため、正答率に影響を及ぼしているものと考えられます。そこに対する対策として、この歴史の学習がどのような歴史の流れの中に位置するところを学んでいるのかということ、丁寧に確認しながら進めるということが大事だと思います。それにおいては、「年表スケール」というものを各者工夫して配置しておりまして、別個に入っているものとか、右ページの脇に入っていてページを開くたびに決められた位置にあるものなど、各者工夫しながら配置されております。それから、歴史は流れを重視しますので、単元を貫く問いを軸に、課長の説明で構造化という言葉が何度か出てきましたが、単元をまとめに向かって構造的に、段階的に踏まえていくところも重要なものと考えており、それについては各者、導入の入口、まとめの出口に向かつてのその間のそれぞれの章立てを工夫しておりますので、どの教科書であっても、教える側の工夫で対応できるかなと思っております。

大 山 委 員 そうしますと、先生方の教え方によって授業の進め方の温度差が出るということでしょうか。

大堀教育指導課主任指導主事 社会に限らず、教科書でいかに教えるかということですが、社会は、地理も歴史も行き来しながら、3年生になって公民も学習するなど、歴史学習の間に地理をやるということもありますので、その辺りも含めて、丁寧に見通しを持たせながらやるという、教員の配慮というのが大事になってくると思います。

鶴岡教育長 令和3年だったと認識しているのですが、閣議で話し合われました、「強制連行」という言葉は、どのように表記されているのでしょうか。

大堀教育指導課主任指導主事 令和3年4月に衆議院で質問があり、内閣答弁されたものに

関してのやり取りがありました。「強制連行、強制労働」という表現に対する返答について、答弁の内容は、「朝鮮半島から内地に移入した人々の移入の経緯は様々であり、これらの人々について、強制連行された、もしくは強制的に連行された、または連行されたと一括りに表現することは適切ではないと考えている。また、旧国家総動員法により徴用された朝鮮半島からの労働者の移入については、これらの法令により実施されたことが明確になるよう、強制連行または連行ではなく、徴用を用いることが適切であると考えている」という答弁でした。

これに対しまして、それぞれの見本本の状況を確認したところ、基本的には、「動員された」「徴用された」「過酷な労働をさせられる」「労働者として重労働に駆り立てられた」というような表現になっていますが、9者の中で、唯一、山川出版社の247ページにおいては、「強制連行」という言葉が確認できました。途中から読みますと、「多くの朝鮮人は日本に徴用され、占領地の中国人も強制連行されて、鉱山や工場などで過酷な条件のもとで労働を強いられた」というところにこの言葉が書かれておりました。

鶴岡教育長 私の方で確認させていただいたので、情報共有させていただきました。もう一点ですが、先ほど、各出版者によって、年表や時代スケールに特徴があるという説明がありましたが、授業をする教職員にとっても、また生徒にとっても、右側についているのが、私の認識では2者だったと思うのですが、どちらの方が学びやすいのか、あえて言えばどちらでしょうか。どちらでも特に問題ないのでしょうか。

大塚教育指導課主任指導主事 見開きを開いたときに、見開きページの下にある方も分かりやすいと思いますし、右側の端についていると、パラパラ漫画ではないですが、ページをパラパラしながらこのページについてはここを学習しているというところが分かるので、それぞれの良さがありますので、どちらでも学習しやすいのではないかと思います。

鶴岡教育長 意見・感想を述べます。全体的に教科書が似てきたなという印象を正直持ちました。まとめ方が似通ってきたかなと。そういった中でも特徴がある出版者がいくつかあって、説明にもあった「対話」を意識した学習過程が大事だということにあえてこだわれば、自由社の「対話とまとめ図」のページ、これは対話から自

分の考えが表現できるようになっているというのは面白いと思いましたし、歴史的に活躍した人物をピックアップして紹介が多いのは育鵬社だったかなと思います。あとは、学び舎については、他者と比べて、探究的な学びができるような仕掛けが学習のまとめのところでクローズアップされていました。日本文教出版は、ポートフォリオというもので、今に合ったというのでしょうか、千葉市ではギガタブと呼んでいるのですが、ギガタブ上で学習履歴を記録することができるようになっていて、面白い動きだなと思いました。ちょっとした特徴ですが、今後生かされるといいかなと思いました。

小 西 委 員 私も意見になりますが、教育長と同じで、今回も選ぶのが大変難しいなという印象を受けました。私は3点ほど重視して拝見しました。まず、1点目は、千葉市の生徒の場合、目的意識を持って主体的に取り組むという点で、県との比較で低いという傾向がありますので、子どもたちが目的意識を持ちやすいもの、自分の頭で考えやすいものというのを重視しました。2点目は、やはり千葉市の課題であるICT活用。これはデジタルコンテンツの内容が充実しているかという視点で見ました。3点目は、世界的な視野に立ってみるという視点が意識されているかという点になります。本市は3年前にグローバルリーダーの育成を目指す稲毛国際中等教育学校が設立されましたが、やはり、時代とともに国際化がどんどん進み、本市でも海外を目指す子どもたちが増えていきますので、世界的な視野で日本の歴史の大きな流れを掴むという視点が今後ますます大切になってくるだろうと考えまして、その視点を大切にしているような者を検討しました。

順番に、まず1点目の主体的に取り組むという点では、東京書籍の「思考ツール」「探究のステップ」、帝国書院の「タイムトラベル」とか「アクティブ歴史」が素晴らしいと思いましたし、教育出版の「歴史を探ろう」「歴史の技」「ホップ・ステップ・ジャンプ」など、この3者が子どもたちの興味を引きやすい、考えを深めやすいと思いました。2点目のICT活用は、東京書籍、帝国書院、教育出版と日本文教出版がデジタルコンテンツが大変充実しているなと感じました。ただ、教育出版の方は、二次元コードを読み取ると、NHKや官公庁などの、大人が見るようなページにリンクしていて、子どもたち自身が目当ての資料や内容にたどり着くのが難しいというふうに感じましたので、そこは是非

改善していただきたいと思いました。

3点目の世界的な視野という点は、どの出版者も年表スケールの年表自体にアジアや西洋の動きが書かれているものがあつたのですが、最初の学習課題であつたり、振り返りのまとめの部分で世界との関係を繰り返し意識させているなど感じたのは帝国書院と教育出版でした。山川出版は、世界史の情報量はかなり多いと思ったのですが、高校の教科書に多く使われているということもあって中学生には情報量が細かすぎるのではないか、という印象を持ちました。最終的には、東京書籍、帝国書院、教育出版の中から選びたいと思っています。

高 津 委 員 私も全体の流れを見まして、2者で考えております。1者は東京書籍です。流れとして、1章で歴史の扉、これでイラストの人物当て、写真等を年表に絡ませて、小学校の既習学習を丁寧に確認しているので、1年生の学習としていいなと思いました。本編に入りますと、各出版者が似ているのですが、1時間ごとの学習を見開きページにしています。東京書籍は学習課題を簡潔に上に記載されています。下段の最後に「チェック」と「トライ」で振り返り、まとめができるようになっていました。章末には、「確かめよう、振り返ろう、深めよう」とまとめながら、学習内容の定着を図っていく工夫がされているなと思いました。他の出版者もそうでしょうが、特に東京書籍において、生徒のキャラクターが出てきまして、その吹き出しの会話が、学ぶ中学生の代弁者になっているような感じがしました。先ほどから意見等の中で出ている年表スケールが右端に出ていますが、これが毎時間、どの学習をしているかというのが視覚的にとらえることができます。巻末に、用語解説が設けられており、基礎、基本の理解を深めるのに役立つと思われました。あと、教科書を通して、写真やデータ使用の紙面構成がずっと同じなので、生徒にとっては見やすく学びやすいと思いました。

もう一つは帝国書院ですが、帝国書院は右端に年表スケールがありわかりやすい、下段に小学校や地理、歴史等の他教科との関連用語が記載されているので、学ぶときに前のものを見返したり、他教科を見返したりして学びやすいと思いました。あとは「タイムトラベル」、これは興味深く読ませていただきました。時代の様子や特徴がこのタイトル2ページに表されていると思いました。それと、もう一つ、帝国書院でよいと思ったのが、社会と

言えば、図書館やどこかへ出掛けて行う調べ学習が多くなると思いますが、8 ページから 13 ページに「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」として掲載されています。他者でも教育出版、あるいは日本文教出版でも同じように詳しく載っていますが、帝国書院のよいところは、生徒の実際の活動写真が載っておりますが、写真一つひとつにこの子どもたちが何をしているのかの説明が書いてあります。そうしますと、これから学ぶ、あるいは出掛けていく子どもたちは次にどのような学習で進めていくか想像することができるので、この点がよいと感じました。

この2者のどちらかかなと悩んでいます。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「社会・歴史的分野」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「社会・歴史的分野」の出版者は、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」「学び舎」及び「令和書籍」の9者です。

この9者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」4票

「帝国書院」1票

よって、「東京書籍」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

ご異議ないようですので、令和7年度に、本市立中学校において使用する「社会・歴史的分野」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

《社会・公民的分野》

鶴岡教育長 次に、「社会・公民的分野」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校社会、公民的分野について報告します。

本市の生徒の社会科における学力については、主体的に課題に

取り組むための動機付けや主体的な学習方法の習得が課題です。従って、本市生徒には、現代社会の見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりすることを、学習過程の中に意図的に組み込む必要があります。さらにICTを効果的に活用し、資料と既習の社会的事象を結び付けて考えさせるような場面設定を行っていくことや、単元を貫く問いの設定、社会参画意識を高める授業の構成などが必要であり、紙面にあげたような特色を持った教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応の（１）では、３８ページのように、章の「導入の活動」でグループ活動を取り入れ、章末の「深めよう」で導入と関連した学習を設定することで、深い学びに導くよう工夫されています。また、内容の（３）では８ページをはじめ、すべての見開きページの定位置に二次元コードが付され、思考ツールやコンテンツが多数用意されて、個別最適な学びが充実するように配慮されています。

次に教育出版ですが、学習指導要領への対応の（２）では３８ページのように、まとめのページが充実し、未来のためにできることとして、今日的な公民的課題について深く考えられるよう工夫されています。また、内容の（６）では１７ページのように、すべての学習テーマにおいてSDGsとの関連付けを示し、学習テーマごとにSDGsの１７の目標のどれと関連付くかを分かりやすく示しています。

次に帝国書院ですが、内容の（２）では２２ページのように、多様な他者と協働して学ぶためのロールプレイやディベートなど、公民としての合意形成を目指す学習活動が紹介されています。また、内容（３）では４２ページのように、二次元コードから「アクティブ公民」のパフォーマンス課題に対応したワークシートや思考ツールにアクセスでき、協働的な学びの充実を図る工夫がされています。

次に日本文教出版ですが、学習指導要領への対応の（３）では８ページのように、テーマごとの学習課題の下に「見方・考え方」のコーナーを設け、各授業でどのような「見方・考え方」を働かせながら問題解決を図るべきかを示しています。また、内容の（６）では１６８ページのように、章のまとめにおいて生徒の主体性が

より高まるよう、実際の新聞記事からニュースの見方や考え方を育むコーナーを設けるなど、工夫された構成となっています。

次に自由社ですが、内容の（２）では２１８ページのように、終章に「課題の探究」ページを設け、ディベートなどの言語活動を通して現代社会の課題について考え、情報活用能力や言語能力を育む構成となっています。また、内容の（６）では６８ページのように、発展的な知識を身に付けられるコラムを充実させることで生徒の関心を喚起し、主体的な学びにつながるよう配慮されています。

最後に育鵬社ですが、学習指導要領への対応（２）では３８ページのように、章の冒頭になぜその単元を学ぶのかという意義が示され、主体的に単元を貫く課題をもって学習に取り組める工夫があります。また、内容の（２）では３５ページのように、学んだことを生かしながら現代の課題について考え、多様な意見から生じる対立から話し合いで合意形成を目指す活動ができる構成になっています。

以上で公民の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

大濱委員 ２０２２年にこども基本法が制定されたのですが、これについて記載されている教科書はありますか。また、子どもに関して、ヤングケアラーが問題となっていますが、こういったことについて取り扱っている教科書はありますか。

大堀教育指導課主任指導主事 こどもの権利条約については、全出版者が巻末に法令集を設けている中に記載されております。本文にも記載されておりますが、「ヤングケアラー」という言葉を確認できたのは帝国書院のみですが、こども食堂という言葉も紹介されておりました。

大山委員 １８歳からの選挙権については、浸透してきていますが、その親の世代の投票率がかなり低いので、今の生徒たちが選挙権を有したときに、投票へ行こうという意欲が湧くように促している教科書はありますか。

大堀教育指導課主任指導主事 １８歳成人の選挙権についてですが、これは、基本的人権の参政権の記述の中で触れられていますが、特徴があるのが東京書籍と育鵬社です。東京書籍に関しては、トピックスとして扱っていて、「１８歳でできること、２０歳でできること」というＱ＆Ａの形で確認できるように記載されております。他のページにも１８歳の選挙権に向けて、意識させるような記述となっています。

育鵬社については、18歳成人について本文での紹介記事とともに、写真資料が掲載されており、18歳に引き下げられた理由を投げかけて、それに対して答えるような記述になっています。

鶴岡教育長 2点伺います。1点目は、公民だけで学ぶものではありませんが、消費者の問題で、消費者の権利と自立という部分で、各出版者が触れていますが、特徴的な記載をしている出版者がありましたら教えてください。

2点目は、社会科の公民というのは、いかに自分事として捉えるかというのが大事な教科の一つだと思いますので、リアルタイムの情報が必要だと思います。ですので、最新のトピックスについて、各出版者が触れていますが、特徴的なものがあれば教えてください。

大塚教育指導課主任指導主事 1点目の消費者教育に関しては、各出版者ともに、経済の分野で適切に紹介しております。記述内容等若干の差異はありますが、紙面として割いている部分が多いのは東京書籍と日本文教出版との報告を受けております。

2点目の、最新のトピックスについてですが、例えば、ウクライナのことについてはすべての出版者が扱ってはいますが、巻頭で写真を付けて紹介しているのが東京書籍、複数箇所に掲載しているのが帝国書院、日本文教出版、育鵬社。自由社は年表の中の記載となっております。

最後に、情報化社会に伴うAI、IoT、ビッグデータ、メタバースといった最新の言葉に関しましても、各出版者ともに「第1章 現代社会」の課題の中で情報化社会の中で適切に扱われております。

小西委員 感想と意見になります。教育出版は、SDGsや小学校とのつながりを意識させている点が大変よいと思いました。ただ先ほどの歴史と同じで、二次元コードのリンク先がやはり大人が参照するような官公庁のページが多くて、子どもには理解が難しい内容になっているかなと思いました。

帝国書院は、二次元コードで見られる振り返りのワークシートがとてもよくできていて、思考の手順がとても配慮されているなと感じました。

日本文教出版は、取り上げている題材が、中学生の学校生活の身近な事例が大変多かったですし、裁判員裁判のところも、他者は実際に大人の模擬裁判で使われるような事例が用いられてい

て、中学生には少し難しいのではないかと感じるところがありました。日本文教出版は、裁判員裁判シミュレーションということで、実際の裁判の流れを理解しやすく簡単に説明していて、中学生にはこちらの方が理解しやすいのではないかと思います。

自由社や育鵬社は、日本人の精神であったり、社説の読み比べであったり、切り口が大変面白いと思いました。育鵬社の世界の人権について詳しく触れている点もよかったと思いました。最終的に、私は東京書籍が一番いいかと思っております。理由は色々あるのですが、一つに、教科書全体として、人権について「考える」という視点をとても大切にしていると思いました。時代の変化とともに、憲法には書かれていないような新しい人権がどんどん主張されています。今後も、AIの発展であるとか、国際化の進展に伴い、憲法にも教科書にも載っていないような人権が主張されてくるようになると思います。その中で、東京書籍は、「違いの違い」というようなページがにみられるように、人権として何を保障すべきなのか、それはなぜなのかというところを、しっかりと子どもたち自身が自分の頭で考えられるような教材になっていると思いました。

他にも、東京書籍は、思考ツールの頻繁な活用が一つの特徴かと思うのですが、本市で行われている子ども議会の勉強会であったり、生徒会交流会を拝見していますと、子どもたちが先生方から教えられずとも、思考ツールを自分たちで活用して、とても上手に話し合っている姿を見て、大変感心することが多いのですが、それは、子どもたちが、日常的に教科書に出てくる思考ツールを使って考える癖をつけているからこそだろうと感じています。その点でも、東京書籍がいいと思いました。

高 津 委 員 私は地理、歴史はよく分かりますが、公民は一体何を学ぶのかということで、各出版者の学ぶ内容を見ました。その中で、東京書籍の巻頭の2ページに黄色い枠で書いてあるのですが、他者が皆、一文で書いてあるのですが、4つに分けて書いてあったり、2つに分けて書いてあったりするのですけれども、公民でどんなことを学ぶのか、その出版者の想いが書いてあります。公民の学習は、東京書籍では、キーワードが「自分ごと」、「問題解決」、そして「今自分にできること」。要するに、最後、何かをするということは、先ほど出ましたが、子ども議会のように課題を見つけ、結論を出して、自分たちで何かしよう、と同じで、最後、自

分ごととして、今できることをやる、そのための公民の学習なのかなと自分で改めて感じました。

歴史等もそうですが、流し方は、東京書籍がいいなと思っております。章の導入部分では研究課題、章全体を貫く研究課題を立てて、章の最後にまとめとして「確かめよう」と、基礎定着を図って振り返ろう、あるいは「探究のステップ」ということで、身近な問題として主体的に学習が進められるようにしています。終章では、巻頭に示したように、持続可能な社会の実現を目指すという、現代社会の様々な課題についてです。これも自分のできることをしてまとめられているのではないかと思いました。一番の授業の流れは、歴史と同じですが、見開き1ページで見やすく、学習課題で示されて、これも下段でチェックがあり、これを学習内容の定着が図られるように工夫されていますし、生徒にとってはこの流れで年間を通しますので、分かりやすいなと思いました。あと、面白かったのは、4章の「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」は、子どもたちは喜んで考えるのではないかと思います。これも自分たちに対して自分事で最後どうするかというまとめになるのだと思います。

あと、成人年齢の引き下げに関して、成人が18歳になったことについては、18歳へのステップということで、内容についてはどの出版者も取り上げているのですが、コラム的に取り上げて、生徒には印象に残るのではないかと思いました。

もう1者挙げますと、帝国書院かなと思います。これも、流れは一緒でありますし、「アクティブ公民」は大変興味深く見させてもらいました。現実的な課題の「赤字バス路線に税金を使うべきか?」、これは中学生がどう議論してどう答えるのかこの教科書になっても面白いなと思いました。また、「もしも無人島に漂着したら?」、これも自分事に考えて、自分だったらどうするというところに最後は意識を向けていくのだと思います。

あと、他者ではおそらく取り上げていないと思いますが、大阪・関西万博を取り上げておりましたし、東京書籍と同様に、18歳への準備ということで、成人年齢の引き下げのことについて、コラム的に記載されており、これも生徒には印象に残るかなと思いました。

以上のことから、東京書籍か帝国書院がいいかなと思いました。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「社会・公民的分野」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「社会・公民的分野」の出版者は、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」「自由社」及び「育鵬社」の6者です。

この6者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」4票

「帝国書院」1票

よって、「東京書籍」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

ご異議ないようですので、令和7年度に、本市立中学校において使用する「社会・公民的分野」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

《地図》

鶴岡教育長 次に、「地図」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校社会、地図について報告します。

本市の生徒の学力については、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、県平均正答率を下回っている状況があることから、社会的事象を多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて思考を深めて説明したり、議論したりする学習活動が必要となります。従って、紙面にあげたように、一般図や主題図、グラフ、統計、写真資料等が豊富に示され、生徒が主体的に自ら学習を進める上で地図帳の活用の仕方や方法が丁寧に説明されている地図帳を選定する必要があります。

観点については、紙面をご覧ください。ここで何点か紙面の記載内容について補足と訂正をさせていただきます。

報告書冊子40、41ページでは、「主な該当ページ」欄に学

年表記がありますが、地図帳は各社1冊のみですので、ここでは「おもにその学年で活用するページ」を表すものと捉えてください。

続いて40ページについて、2箇所 of 訂正です。「主な該当ページ」欄1つ目ですが、1年26ページは13ページの誤りでした。また、最下段「扱いやすさ」欄の重さにですが、650gは見本本が収納されていた箱を含めていましたので、その分を除き、正しくは570gとなります。補足と訂正は以上です。

それでは、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」(1)では13ページのように、資料についてキャラクターが問いかける形で学習課題を示すことで、学習者を主体的・対話的な学びに導く工夫がされています。また、内容(2)では111ページのように、探究課題に沿って学習する際に、比較・活用できる地図資料を掲載し、学習効果が高まるよう配慮されています。

次に帝国書院ですが、「学習指導要領への対応」(1)では19ページのように、資料の活用を促す「主題学習」が配置され、主体的・対話的で深い学びの実現に配慮しています。また、内容(1)では29ページのように、自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配して生徒の意欲を引き出す工夫をし、地域的特色を見開きページで包括的に捉えることができる構成となっています。

以上で、地図の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 質問1つです。世界地図において、帝国書院では「日本国」となっておりますが、東京書籍では「日本」です。東京書籍のところで、156ページの世界の統計では「日本国」となっておりますが、地図だけは「日本」と表記しております。これはどちらでもよいのか、あるいは使い分けがあるものなののでしょうか。

岩切教育改革推進課主任指導主事 確かに東京書籍は「日本」という表記で、帝国書院は「日本国」という表記をしております。学習指導要領上は、「日本国」というふうに示されています。ですので、「日本国」と表現して間違いないと思います。一般的に私たちが名称を呼ぶときに「日本」と呼ぶことが多いので、東京書籍はそうように書かれているものと思われます。この表記について確認しましたが、どちらかが正しい、間違っているということはないです。

大 濱 委 員 感想と意見です。2つの書籍を比較しますと、私は帝国書院の方が資料が充実していると思いました。地理は東京書籍に決定しましたが、同一出版者の方が望ましいなどはあるのでしょうか。

また、世界の人口など、デジタルコンテンツの情報は最新の内容に更新されるのでしょうか。

岩切教育改革推進課主任指導主事 確かに、東京書籍については、教科書に掲載されている内容をさらに詳しく記述しており、自社の教科書との関連を意識した内容になっておりますが、地図帳の本来の目的は、抽象的な表現を読み取り、各地域の地理的事象、その要因、背景、さらにそこで生活する人々の営みを読み取ることです。そのため、生徒や教師などの利用者が目的に合わせて自由に活用するものであって、地理の教科書と同じ出版者にこだわる必要はないと思っております。

2つ目の質問のデジタルコンテンツについては、両出版者とも充実していると思います。デジタルコンテンツであるからこそ、方針は各出版者とも考えておられると思います。即答できかねますが、地図の統計資料は毎年更新されますので、今後も、各出版者ともそれを踏まえて更新されていくものと考えております。

大 濱 委 員 それは、デジタルコンテンツの内容が更新されるということでしょうか。

岩切教育改革推進課主任指導主事 地図帳の紙媒体のものは更新されませんが、デジタルコンテンツにおける情報は最新のものに更新されていくのではないかと考えております。

小 西 委 員 私も結論としては帝国書院がよいと思っているのですが、今回、東京書籍がA4版になって大変見やすくなったと思いますし、日本各地で豪雨被害が増えている中で、歴史と治水という重要な事柄について、地図から考えさせるというのは大変よい視点だなと思いましたので、感想として述べさせていただきます。

大 山 委 員 私も感想を述べます。東京書籍は、日本の自然環境、地形や気候、自然災害などがかなり詳しく記載されていて、理解しやすかったです。最近、自然災害が多いので、生徒たちにも大変勉強になると思いました。

帝国書院は、地図が見やすいです。地形だけではなく、歴史や自然などの知識が大変豊富に載っておりましたので他の教科と関連できている面が強いかなと思いました。

高 津 委 員 私も皆さんが言ったように、帝国書院がよいと思います。今、

災害の話が出ましたが、実際は地理でやるのでしょうが、一つの資料として、帝国書院は4ページにわたって自然災害が載っております。東京書籍は2ページということで、やはり地形の問題ですし、地図にも関係すると思いますので、多く掲載されている帝国書院の方がよいのかなと思いました。それから、すでに課長の話で出ました鳥瞰図については、例えば、ヨーロッパで見ると、東京書籍は、37ページから38ページ。帝国書院は53ページから54ページですけれども、高低、起伏の地形は両方とも分かりますが、帝国書院の方は先ほどの説明であったように、生活文化、産業のイラストを重ね合わせているので、地形プラス産業文化で関連した知識として生徒にとっては分かりやすいと思いました。

それからもう一つ。世界の生活・文化ということで、東京書籍は15ページから16ページ、帝国書院は19ページから20ページになりますが、食文化ということで写真が掲載されております。食文化というと、料理の内容はもちろんです、食事形態とかいうことを考えたら、帝国書院は色々な食べ方を掲載しておりますので、文化としては、帝国書院の食文化の方がよいと思います。

こういったものを比べて、帝国書院の地図がよいのではないかと思います。

鶴岡教育長 では、私からも。実際に見ていただいた方が分かりやすいと思いますので資料を掲示してもらっていいですか。帝国書院の53ページと、東京書籍の37ページの図を並べて映していただいてよろしいでしょうか。これは好き好きかとは思いますが、子どもたちが興味関心を持って地図をみるときに、どちらなのかと考えたときに、色々な情報が的確に載っている方がやはり見やすいのではないかと思います。日本の地方によっては東京書籍の方が見やすい地図もありました。ただ、全体としては、帝国書院の方が分かりやすい、見やすい地図になっていたと思います。

これはつまらない感想になるかもしれませんが、世界地図があったときに、自国の位置は中心に据えてほしいと思います。両出版者ともに真ん中に置いてはありますが、帝国書院はど真ん中に置いてある一方、東京書籍はやや真ん中で、ど真ん中でなかったので少し残念かなと思います。

最後に、資料ですが、東京書籍と帝国書院を比べたところ、東京書籍の資料が新しく、帝国書院は1年古い資料になっていましたので、資料については、東京書籍の方がよい資料で、今に近い資料かなと思いました。私からは以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「地図」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「地図」の出版者は、「東京書籍」及び「帝国書院」の2者です。

この2者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「帝国書院」5票

よって、「帝国書院」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に、本市立中学校において使用する「地図」の教科用図書は、「帝国書院」と決定しました。

《数学》

鶴岡教育長 次に、「数学」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校数学科について報告します。

本市の生徒の学力については「全国学力・学習状況調査」において全国の平均正答率を上回っていますが、結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出して説明することに課題があります。また、意識調査において、「数学の勉強が大切だ」「数学を学習したことが将来役立つ」と回答する割合は全国と比べてやや低い傾向があり、身の回りにある数量関係を数学と結びつけることや、教科横断的な取り組みも必要です。従って、事象を数理的に捉え、数学の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること、

即ち数学的活動の充実による深い学びを実現できるような特色を有する教科用図書を選定する必要があります。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応（１）では１年６３ページのように、章ごとに学習目標を設定して見通しをもった学習を促し、自分で調べたり考えを説明したりする活動も多く設けています。また、内容の（２）では３年２２８ページのように、小学校から高校までの学習のつながりが意識でき、既習事項や数学的な見方・考え方を活用して系統的な学びを意識し、自ら学びを切り拓こうとする態度を養うよう配慮しています。

次に大日本図書ですが、学習指導要領への対応（３）では１年１４７ページのように、色々な見方や考え方ができるような問いかけを行うことで、発展的な考察ができるよう工夫されています。また、内容（２）では２年１６２ページのように、日常の場面と数学を関連させる題材を取り入れ、「問題を見出し、解決のしかたを探し、解決し、考えを深める」という、探究的な学習活動ができるよう工夫されています。

次に学校図書ですが、学習指導要領への対応（１）では２年９６ページのように、例題の多くが生徒の対話で進められ、ページの右側に帯で解決への過程を示すことで見通しを立てて解決できるよう工夫されています。また、内容（２）では３年２５３ページのように、章末に「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」を書き込む表と、コラム「数学へのいざない」があり、学習内容を振り返るとともに探究的な学びを促す構成となっています。

次に教育出版ですが、学習指導要領への対応（２）では２年６５ページのように、「章とびら」で、実社会や日常生活、先端テクノロジー等、他教科との関連性を意識した素材を取り上げ、生徒の興味関心を高める工夫をしています。また、内容（１）では３年２０ページのように、段階的に問題提示をすることで基礎・基本の定着を図れるようになっており、補充問題、実力アップ問題によって習熟度に応じた取組みができるよう工夫されています。

次に啓林館ですが、学習指導要領への対応（３）では３年１７５ページのように、「ステップ方式」の課題により問題発見・解

決の過程を意識し、「数学的な見方・考え方」を働かせる場面は下線と「標識」マークを用いて可視化しています。また、内容(3)では2年86ページのように、「動画」「シミュレーション」「スライド」など多様なデジタルコンテンツがあり、全ての例、例題、章末、巻末問題には解説動画が用意され、一人一台端末を有効活用した深い学びの実現に配慮しています。

次に数研出版ですが、学習指導要領への対応(3)では3年127ページのように、キャラクターの対話を通して多様な考え方や逆に誤った考え方を提示することで、より理解が深まるよう配慮されています。また、内容(5)では1年292ページからあるように、関連する算数の内容を振り返りながら学習が進められるような構成になっており、また、小学生の学習内容と1年生の学習内容の関わりがまとめられ、学びを深める工夫があります。

最後に日本文教出版ですが、学習指導要領への対応(1)では1年80ページのように、日常から問題を見出し解決する過程を丁寧に示し、巻末にある「対話シート」を使って、協働的な活動による深い学びが図れるよう工夫されています。また、内容(6)では3年114ページのように、主体的に学習に取り組む態度の評価ができるような課題が各章に1か所以上設けられ、指導と評価の一体化が実現できるよう配慮されています。

以上で数学の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 二つ質問をさせていただきます。1点目は、今、説明のありました、「千葉市の児童生徒の学力と今後の課題」のところに、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は全国平均を下回っているとのことでした。本当に数学は、社会に出たら役に立たないのでしょうか、どんなことに役立ちますかと聞かれたらどのように答えるか、あるいは、教科書で、こんなところで役に立っているという内容があったら教えてください。

2点目は、数学は、学力差が大きい教科になります。数学は積み重ねの学問ですので、一度つまずくと、そのあとかなりの影響があります。

そこで伺います。中学生の数学で多くの生徒がこの単元でつまずくというところがあったら教えてください。もし、こんなつまずきがあったら、こういうふうにしたらいいというものが記載さ

れている教科書がありましたら教えてください。

松永教育指導課指導主事 最初のご質問の、数学が役に立つかという部分についてですが、どの教科書においても、SDGsに関する取組みですとか、防災安全教育など、実社会とのつながりを意識したコラムを取り上げたりしているとの報告を受けております。中でも、数学に関わる職業の紹介をしており、数学と仕事を結びつける内容が取り入れられております。

例えば、数研出版や教育出版では、スポーツアナリストについて紹介しており、バドミントンやバスケットボールなど、保健体育の授業で行うような種目との関連も含めて生徒の興味、関心を引くような内容になっております。また、消費者教育等に関連した題材を取り上げているなど、実社会とのつながりから数学がどのように役立っているかを各出版者とも紹介しております。

2点目について、中学生になってつまずくところですが、正直なところ、小学校の算数の段階でつまずいているということもありますが、第1章の正の数・負の数の単元において、負の数の計算となったときに第一段階つまずきが出るのかなと思っております。

その部分の工夫というところでは、大日本図書では、絵を大きく書いて数直線上の動きを分かりやすく示す工夫がされております。また、東京書籍では、デジタルコンテンツを使って、数直線上の動きを可視化することで理解を深めるような工夫がされております。また、学校図書では、カードゲームを使うことで、ゲーム感覚を取り入れながら、生徒の興味、関心を引くような工夫がされているとの報告を受けております。

小 西 委 員 質問ですが、数学は学力差が大きくて積み重ねの教科ということで、全国的な傾向でもありますが、本市においても、様々な事情で教室へ行けないという子たちが増えています。そういった子どもたちへのフォローが丁寧であるという点で、デジタルコンテンツの内容を含めて優れているという出版者がありましたら教えてください。

松永教育指導課指導主事 デジタルコンテンツにつきましては、多くの教科書で参考になるwebページにリンクできるようになっていたりですとか、不登校の生徒に限らず、動画ですとか、図形を動かすシミュレーションを取り入れた教材が多く見られます。

例えば、東京書籍では、「対話シート」というものを用意して、

自分で図に書き込んだり、説明する方法を考えたりするようなことができるコンテンツが入っております。また、日本文教出版では、3年生で図形のまとめのコンテンツということで、それまで学習したものをまとめて一覧で見られるようになっている工夫がされております。啓林館では、これは不登校の子どもたちにも対応できるようになっていると考えているのですけれども、教科書の例を全て動画で丁寧に解説をしている点が工夫されたコンテンツだという報告を受けております。

鶴岡教育長 高津委員と小西委員とちょうど似たような質問をしたかったので、似たようなことを聞きますが、まず一つとして、算数から数学に上がるにあたって、算数の段階で中々難しいと思ってしまうと、中学校に行ってもさらに難しい数学になると。そういう感覚を持って中学校に上がってしまう子はいらっしゃいます。そんな時に、これは、1年生の教科書にこだわったのですが、1年生の教科書の目次を見ていただければ分かると思いますけれども、全ての出版者が「正の数と負の数」からスタートしています。

しかし、2者だけ、東京書籍は「算数から数学へ」というスタートし、教育出版は「整数の見方」からスタートしていて、おそらく、算数から数学へ、数学は難しいものではないという配慮のもと、こういった形でのスタートを、あえて教科書の工夫としてやっているのではないかと思います。その辺りのところはどう見えていますか。

松永教育指導課指導主事 やはり、算数から数学になったときに一つ乗り越えなければいけない部分がありますので、教科書もそうですし、指導する側もすごく工夫をしながら導入を行っております。教育長がおっしゃったとおりで、東京書籍では、0章というものを設けて、「算数から数学へ」を設定して、九九から掘り進んだ学習へとつなげております。算数の中でも九九というのは早い段階で学習するので、そういったものを活用しながら深めていくということで、学習に入りやすくしているのではないかと考えられます。

また、教育出版と大日本図書についても、小学校で学習した長方形の面積をもとに、中学校への学習に進んでいくという辺りで工夫が感じられます。この3者につきましては、スタートが素因数分解からということになっておりますので、素因数分解を学習してから正の数、負の数の学習に進む流れとなっております。

それ以外の出版者につきましては、正の数、負の数が学習のス

タートになっているのですが、こちらも気温や高さを負の数で表すということを使いながら、身近にある題材を使って日頃目にすることの多いものから学習をスタートするような工夫がされています。

鶴岡教育長 もう一点伺います。他の教科と比べて、習熟度学習が行われる可能性が高い教科ですが、先ほどの高津委員の発言にもあったように、学力差が出やすい教科であるがゆえに、逆に言うと、自主的な学習ができやすい、そんな環境を作らなければいけない教科でもあるかなと思っています。

ついては、先ほどのデジタルコンテンツのところで、ただ量が多ければよいというものではなく、質の面、先ほど啓林館の解説動画という話があり、学校図書にもあったと思いますが、いざ学びたい、または家に帰って復習したいというときに、一人で学習することを想定したデジタルコンテンツみたいなもので、特徴的な点があれば教えてください。

松永教育指導課指導主事 多くの出版者で取り入れているのですが、補充問題という形で、デジタルコンテンツで取り組めるように、準備している教科書が多いと思います。また、「振り返り」というコンテンツを用意して、これまで学習したものを振り返れるようなものを取り入れているのが啓林館ということで報告を受けております。

高津委員 意見ですが、啓林館は、表紙を開けると、ICTの活用で広がる、内容で素人がこうしたほうが良いというのはないのですが、ICT活用で広がる数学の学習、今ICT使ってやっていると復習がしやすいというところは、啓林館は、補充問題の回答を見ると、普通、学校では例題をやって、問いをやって、それからさらに章の方に行くのですが、たくさん出中の、易しい問題も途中式がきちんと書いてあります。だから、答えだけパッと見ていると、正答のみが記載されているのではなく、補充問題の解説がものすごく丁寧になされています。そして、これは教科書の後ろに回答がありません。章の問題も、力を付ける問題も。この二次元コードを見ると、これを全部載せたとすると、回答集を作らなければいけないくらいのボリュームがあるので、私はその啓林館の運び方がいわゆるつまずいている子、つまずきやすい子、つまずきそうな子に、問題の多さといい、解答の仕方といい、合っているなど見ていて思いました。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等ございませんようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「数学」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「数学」の出版者は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」「数研出版」及び「日本文教出版」の7者です。この7者から投票により決定いたします。

事務局は、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」1票

「新興出版社啓林館」4票

よって、「新興出版社啓林館」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「数学」の教科用図書は、「新興出版社啓林館」と決定しました。

《理科》

鶴岡教育長 次に、「理科」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校理科について報告します。

本市の生徒の学力については、概ね良好ですが、「観察、実験などの指導において、直接体験を基本としつつ、生徒の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすること」と「各領域の思考・判断・表現」に課題が見られます。従って、科学的に探究する力を養うために、理科の見方・考え方を働かせて考察したり、多面的に考えたりする活動が取り入れられていることや、観察、実験の手順が分かりやすく表され、基本的な技能が安全に習得できるよう工夫されていること、といった特色を持つ教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、学習指導要領への対応(1)では1年84ページのように、問題発見から活用までの探究のステップを

細かく設定している点が工夫されています。また、内容（６）では１年１０ページのように、これから学習する内容に関連した「スタート動画」を見ることができ、主体的な学びにつながるよう導入方法に配慮しています。

次に大日本図書ですが、学習指導要領への対応（２）では３年２８３ページのように、章末に他教科と関連する事柄を示し、さらに学びを広げることができるように工夫されています。また、内容（２）では３年３２４ページのように、単元末にはその単元で学習したことを活用できる資料を設ける構成となっており、探究的な学びにつながるよう配慮されています。

次に学校図書ですが、学習指導要領への対応（１）では３年２ページのように、「なぜ理科を学ぶの？」で理科の有用性を、「理路整然 探究の進め方」で生徒自身の疑問から探究活動を見出す道筋を示しています。また、内容（３）では２年６８ページのように、教科書全ページがwebページ化された「ミライ教科書」にアクセスでき、上位・下位学年の教科書も参照して自学ができるようになっています。

次に教育出版ですが、学習指導要領への対応（１）では、３年２４２ページのように、「活用しよう」のマークを示して、体系化した知識を次の学習や日常生活における場面で生かせるように工夫されています。また、内容（２）では３年２６５ページのように、単元で１か所程度、探究の進め方に沿った学習活動を示しており、巻頭の「探究の進め方」ページに戻ればいつでも探究の流れを確認して学習できるよう工夫されています。

最後に啓林館ですが、学習指導要領への対応（２）では、２年２８８ページのように、関連する他教科名を表示して学びの広がりにつなげ、密度や濃度計算など、生徒が苦手とする定量的な扱いを補助する数学の考え方を丁寧に掲載しています。また、内容（６）では１年２５３ページのように、「みんなで探Qクラブ」では学習内容から生じた疑問を探究する例が紹介されており、自由研究の参考としても活用できる構成となっています。

以上で理科の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 ２点伺います。これも数学と同じですが、理科系の苦手な中学生はたくさんいると思います。生物、化学、物理、地学ですか。この中で中学生が苦手な分野であったり、その苦手になりやす

い分野を分かりやすく解説している教科書はありますか。また、理科の分野ではノーベル賞を受賞する方もいますが、受賞者に関する記述や、受賞者から中学生に対してコメントしているような記述のある教科書はありますか。

本間教育指導課指導主事 まず、1点目の中学生が苦手な分野といいますと、物理分野が苦手な生徒が多いと感じております。特に、算数、数学が苦手な生徒にとっては、計算も含めてつまずきが多くなってくところになります。そのような点で、理科で使う算数、数学ということで、大日本図書、教育出版、啓林館は、巻末資料でも取り上げており、啓林館は特に丁寧に取り上げております。また、例題の中で解説動画があるのですが、計算の仕方から解説をしている動画が掲載されております。

2点目のノーベル賞についてです。ノーベル賞に関しては、大日本図書、教育出版、啓林館の3者が巻末資料で、ノーベル賞を受賞した方、発見、解明した内容などが紹介されております。

小西委員 1点、質問になるのですが、本市の生徒の課題として、観察、実験などの指導において直接体験を基本としつつも、ICT活用をしていければというところですが、各出版者のデジタルコンテンツの中で、実験、観察というところで、特に伝わりやすいとか優れているところがあれば教えてください。

本間教育指導課指導主事 二次元コード、ICTについては、各出版者とも活用されておりますが、特に、東京書籍では、実験の手順を二次元コードから動画で確認できるようになっております。また、東京書籍、啓林館の2者は、導入のところでスタート動画を掲載しており、探究の過程において、はじめの問題の気づきや学習の動機付けなどに効果的な動画を掲載しております。また、動かせるコンテンツということで、これまでは、オシロスコープのような器具を使っていたものに関しても、ICTを活用して生徒が各自操作できるようなコンテンツの工夫もされております。

鶴岡教育長 私も似たような質問をさせていただきます。本市では、理科専科の理科サポーターを配置しているので、できるだけ子どもたちと一緒に実験などをしようという取り組みをしておりますが、残念ながら、全てが全て観察、実験というわけではない部分を鑑みますと、デジタルコンテンツの充実さというのは大事になってくると思います。

例えば、家に帰ってからもう一度実験を復習できる、または実

際にやっているところをもう一回見てみる等々の活用が必要になってくると思うのですが、そのデジタルコンテンツでの自学、授業で見せるものも大事ですけども、自分で学びたいという子に対して、このデジタルコンテンツの充実度合いについて、何か特徴がありましたら教えてください。

本間教育指導課指導主事 各出版者とも、ICTに関しては工夫がなされています。東京書籍に関しては、問題の学習履歴が残せるような工夫がなされており

ます。

大日本図書も観察、実験の手順を確認することができます。

学校図書は、動画教材は勿論ですが、全ページwebで確認することができ、振り仮名を振ったり6か国語に対応していますので、そのようなシーンにも活用できます。

教育出版社も資料動画やweb図鑑などを見ることができます。啓林館に関しては、例題の解説動画が自学に効果的と考えられ、また、CBT形式の問題や、動画を見ながら考えるようなコンテンツも用意されており

ます。

鶴岡教育長 もう一点伺います。新学習指導要領になって、理科のキーワード、他も同じような言葉を使うのですが、特に理科は、「探究学習」というのが大きなキーワードになっていて、この探究について中心的に触れたいというような、例えば、東京書籍と啓林館と教育出版社の3者が特に探究活動については詳しく載せているなど。各出版者とも載せているのですが、特にこの3者は詳しく載せていると感じました。この点については何か報告を受けていますか。

本間教育指導課指導主事 各出版者とも、単元の過程に沿った構成をしており、単元の一つ程度探究の仕方を意識して丁寧に学習できる題材を用意してあります。東京書籍は「じっくり探究」というところで単元の一つ題材があるのですが、さらにアイコンやフローチャートなどを工夫して、確認しながら進められるようになっています。

学校図書は、発達段階を考慮して探究活動の重点を置き、学年ごとに探究的な学習の手法、考え方を身に付けられる工夫がなされています。

加えて、「理路整然」というコーナーでさらに探究を深める問いも掲載されており

ます。

啓林館は、「探究実験」というところで単元の一つ、「探究実験」には「探究シート」が付いており、また、「探Qクラブ」が

単元末に一つ。「探Qラボ」「探Qのたね」「探究の流れと振り返り」など、探究をさらに深めていくツールが充実しているとの報告を受けております。

大山委員 私からは各出版者に対して意見を述べます。まず、東京書籍は、デジタルコンテンツが豊富でしたので、自分で学び、広め、深めるという学習方法において、大変勉強になるのではないかという感想です。

大日本図書は、各章まとめのページで、問題が大変豊富にありまして、学習した内容の基礎、基本について、個々が主体的に学習できるようになっていると思いました。

学校図書は、「日本の天気」の章で、日本の四季について、どの出版者も触れていますが、その中で、春夏秋冬、梅雨、台風と全て1ページずつ記載されており、日本独特の天気を詳しく学習できるように配慮されておりました。

教育出版社は、探究の進め方の配置が、生徒を導くようになっておりました。

啓林館は、実験のページが大きなイラスト、写真を用いていて、生徒としては見やすく理解を深めやすいのではないかと思います。千葉市は科学館もありますし、小学校では育成プログラムジュニア講座があります。また、中学校はサイエンスクラブアセンブリーで研究成果を発表する機会があります。

理科が好きな生徒には発表の機会がありますので、総合展覧会でも毎年素晴らしい研究発表や作品が披露されておりまして、多くの来場者が楽しみにしております。ですので、このように、苦手な生徒が少しでもそういうところに近づけるような、自由研究ができるような教科書を選んでいきたいなと思っております。

高津委員 私は東京書籍か啓林館かなと考えています。東京書籍は、先ほどこから探究という言葉が出ていますが、私は表紙から探究の世界に招かれているような気がします。1年生の教科用図書だと女の子が逆さまに映っているのですが、「なんでこうなっているの？」と囁いているように見えます。もし、これを見た中学生が「なんでこうなっているの？」と思えば、その中学生は探究に一步入っていると思います。ページを開いても同じです。2、3年生の教科用図書も同じく囁きから入っていますので、私は理科に関しては素人ですから、これを見てそのように感じました。

それから、もう一つは、2年生の電気の分野です。東京書籍と

他者の違いですが、他の教科書は、電流から入って、静電気は後から出てきます。いわゆる原理から現象という流れです。逆に東京書籍は自然の事象から入り、原理を解説するという構成になっており、これは面白いと感じました。ということで、東京書籍がいいなと思いました。

もう一つは啓林館です。まず巻頭に「探究を始めよう」で探究の流れを見て、次に教科書の使い方につなげていて、すごく分かりやすく説明されています。7、8ページに千葉市の課題であるICTの効果的活用が挙げられていますので、これがうまくつながったらいいなと思いました。また、単元が終わった後に、章ごとの学習のまとめがあって、用語を太字にして、何ページに書かれているか生徒に分かりやすくなっていました。その後にやや高度な力試しがあって復習できるようになっています。さらに、「探Qクラブ」から広がる世界という、サイエンス資料も楽しく読ませてもらいました。私はスポーツをやっておりますので、「部活ラボ」が気に入りました。

小 西 委 員 意見になりますけれども、私も皆さんのおっしゃるような理由で、啓林館と東京書籍がより工夫されていてよいなと思いました。付け加えるとすれば、理科という教科は、やはり理解した上である程度記憶をしなければいけない分野も多いかと思うのですが、啓林館は、生物の分類であるとか、水溶液の性質であるとか、知識が混乱しがちな部分について、写真や図をうまく利用して、表を見れば一目で頭の整理がしやすいようにうまく整理されているなと感じました。

鶴岡教育長 私も意見を述べます。教科書の採択に当たって、一番私が重視しているのは、本市の子どもたちの課題、本市の実情を踏まえた上でどの教科書がよいのかと考えているところです。デジタルコンテンツまたは写真、映像は、東京書籍が秀でていると思います。ですので、それを活用する場合は、子どもたちがうまく活用できるかなと思うのですけれども、本市の課題の中心的な部分は、私は探究学習だと思っております。それがゆえに、探究学習においては、私は啓林館と教育出版の2者が特に深く掘り下げて学習に取り組めるようになっているように思います。以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「理科」の教科用図書を決定

します。

それでは、採決に移ります。

「理科」の出版者は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」及び「新興出版社啓林館」の5者です。この5者から投票により決定いたします。この5者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「教育出版」1票

「新興出版社啓林館」4票

よって、「新興出版社啓林館」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「理科」の教科用図書は、「新興出版社啓林館」と決定しました。

ただいまの時刻は、15時5分です。議事の途中ですが、ここで休憩を挟むことといたします。

会議の再開は、15時15分といたします。

＜休憩＞

＜音楽・一般＞

鶴岡教育長 それでは、会議を再開いたします。

音楽一般に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校音楽一般について報告します。

本市の音楽科の授業では、年間を通して歌唱・器楽・創作・鑑賞をバランスよく取り上げ、計画的に学習を進めています。今後も継続して、題材を通して付けたい力や学習目標を明確にし、音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、音楽活動の楽しさを味わうことができる授業の工夫改善に取り組めます。従って、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指し、内容が適切に取り上げられていることや、音楽の基礎的・基本的な知識・技能が身に付けられること、主体的・協働的に学習に取り組める内容や系統性に適合することが必要であり、紙面

にあげたような特色を持つ教科用図書が求められます。

観点については、紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず教育出版ですが、学習指導要領への対応（２）では２・３年上６４ページのように、生徒たちの日常で迷いやすい著作物の区分やよくある事例について、Ｑ＆Ａでの説明などで分かりやすく解説され、現代的な諸課題に対応した学習ができるよう配慮されています。また、内容（５）では２・３年下３２ページのように、小学校からの系統性に基づき、生徒の意欲が高まるよう地域と密着させた題材で創作に意味を持たせながら、生活や社会における音楽の意味や役割についても考えられるよう工夫されています。

次に教育芸術社ですが、学習指導要領への対応（１）では１年３２ページのように、「学びのコンパス」により教科書の手順に沿って学習を進め、ワークシートに自分の考えを整理し、生徒同士や指導者との対話を促す構成となっています。また、内容（３）では２・３年上３１ページのように、ワークシートで作成したものがすぐに再生できる創作ツール、鑑賞曲の譜例の再生、歌唱曲のパート別音源などのデジタルコンテンツが豊富で、著作権についてはＪＡＳＲＡＣ、ＳＤＧｓについては外務省の公式サイトにつながり、より深く学習できるようになっています。

以上で音楽一般の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含めて何かございますか。

大山委員 音楽の伝統文化について教えていただきたいのですが、日本の伝統文化が関連した音楽の良さが分かるように工夫されている教科書はありますか。

本田教育指導課指導主事 伝統文化に関しましては、教育出版社は上の２ページから３ページです。巻頭のところで、伝統音楽に関して写真付きで演奏者の思いや未来へつなぐ中学生へのメッセージなどが分かりやすく記載されています。また、教育芸術社においては、デジタルコンテンツを使い、演奏している様子や作品のことなどを紹介しております。

鶴岡教育長 ２者とも、歌唱、創作、鑑賞という柱建てで構成されていると確認し、鑑賞の部分について特化して注目しましたが、どの教科書も１年生の部分が一番大事かと思って見ました。スタートのところで、ヴィヴァルディの春の作品があって、それをまた見たい、

聞きたいというときにコンテンツを使うことになると思います。教育芸術社の方は、今演奏している部分が色で示されていて分かりやすく書いてあり、教育出版社は、四つの季節それぞれについて詳しく説明するだけだったかなと思います。

また、「魔王」という曲がありますが、独創的な曲で、私の好きな曲の一つですが、再生して家でもう一度聞きたいと思ったときに、教育芸術社は聞けますが、教育出版社はそういったコンテンツがなくて、そういった部分の充実度でいうと、教育芸術社の方がより充実しているのかなと思いました。

小西委員 意見になりますが、今、教育長がおっしゃったとおりで、デジタルコンテンツの内容がより充実しているのは教育芸術社かなと思いました。合唱の部分も、パート別に分かれているので、子どもたちがグループごとに分かれて練習するときも取り組みやすいかなと思いましたし、教育芸術社は、子どもたちに身近なポピュラー音楽のジャンルであったり、子どもたちに身近な最近の歌手なども載せている点も興味を持ちやすいのかなと思いました。

また、著作権についてもより丁寧な説明があるのも教育芸術社かと思うので、私は教育芸術社がいいと思います。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「音楽・一般」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「音楽・一般」の出版者は、「教育出版」及び「教育芸術社」の2者です。この2者から投票により決定します。事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「教育芸術社」5票

よって、「教育芸術社」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「音楽・一般」の教科用図書は、「教育芸術社」と決

定しました。

《音楽・器楽合奏》

鶴岡教育長 次に、「音楽・器楽合奏」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校音楽 器楽合奏について報告します。

本市の生徒の学力については、音楽を形作っている要素をよりどころに知覚したことと感受したことの関わりについて考えることが苦手という傾向があり、音楽を形作っている要素を絞り、その要素を根拠として思いや意図を持つことができるようになることが課題です。従って、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、感じ取ったことなどを他者と伝え合い、学び合う協働的な学びを通して、個の学びを深めることに資する教科用図書が求められます。

観点については、紙面をご覧いただき、調査結果を具体的に説明します。

まず教育出版ですが、内容（１）では５０ページのように、教材ごとに焦点化された学習のめあてを明記し、楽器演奏についての写真を豊富に用いることで、学習指導が進めやすいよう配慮されています。また、内容（６）では７４ページのように、主要部分の教材と、選択可能なオプション部分の教材を組み合わせることができ、各学校の実態やカリキュラムに柔軟な対応ができるよう、工夫されています。

次に教育芸術社ですが、学習指導要領への対応の（２）では８ページのように、「学びの地図」に音楽を形作っている要素が示され、指導計画作成の際に、共通事項との関連が図れる点が工夫されています。また、内容（３）では５７ページのように、メッセージ動画や、楽器の基本的奏法の解説動画、音楽家の紹介、模範演奏の音源、伴奏の音源、創作ツールなどのコンテンツが豊富であり、自身で学びを深めることができる構成となっています。

以上で音楽 器楽合奏の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

小西委員 ２点質問します。まず、器楽の授業の場合、ギガタブを使用する場面は多いのでしょうか。

２点目ですが、リコーダーに関してですけれども、千葉市の場合、アルトリコーダーを購入せずに、ソプラノリコーダーを使い続ける学校があるのかどうかというところを教えていただけれ

ばと思います。

本田教育指導課指導主事 1 点目のご質問の、器楽の学習中のギガタブ使用についてですが、音楽室には机を置いていない学校も多くあり、楽器を正しい奏法で演奏するために、譜面台を使用するので、スペースの関係上ギガタブを開きながら学習することは難しいことが予想されます。そのため、器楽では教科書で完結すると使いやすいというように聞いております。

2 点目のアルトリコーダーについてですが、コロナ禍を挟みまして、だいぶりコーダーの購入も減っておりまして、ギターや琴など、直接口を付けずに演奏できる楽器を器楽として扱うことがここ数年増えておりました。また、今年度、次年度あたりからリコーダーの購入数が以前のように戻ってくるのではないかとはいえますが、そのようなこともあり、新たにアルトリコーダーは買わず、それらの弦楽器とソプラノリコーダーのアンサンブルなどをする学校も増えてきているように聞いております。

高 津 委 員 3 つお伺いします。

1 つ目は、音楽の中の器楽ということで、全体が何時間で、そのうち何時間が器楽と決められているのでしょうか。

2 つ目は、先ほど、音楽一般は教育芸術社で決まりましたが、同じ音楽の中で教科書が同じ出版者でなくても問題はないのでしょうか。

3 つめは、学習指導要領で、3 年間を通じて、1 種類以上の和楽器を取り扱うこととなっておりますが、現在、千葉市はどのように取り入れているのか。そのときに心配なのが、学校で一緒に学習できるだけの琴があるのか。それと指導についてはどのように行っているのか教えてください。

本田教育指導課指導主事 まず、1 つ目の器楽の学習の時数ですが、千葉市の年間指導計画では、学年により若干差はありますが、年間 10 時間ほど、器楽の学習に充てています。ただ、歌唱からの流れであったり、合唱からの流れであったりもしますので、若干 10 時間より多くなることが多いと聞いております。音楽の学習の時数は、1 年生は 45 時間、2、3 年生は 35 時間となっており、そのうち 10 時間が器楽となっております。

2 つ目の音楽一般と器楽合奏の出版者についてですが、同じ出版者でなくても、共通教材や共通事項により、指導するポイントが明確にされておりますので、問題が生じることはないと考え

ております。

3つ目の和楽器の指導についてですが、千葉市では、音楽教育センターが新宿小学校、花園中学校、おゆみ野南中学校に設置されております。そこでは学校で準備するのが難しい楽器などを市として購入して、市内の学校に貸出しをするというシステムになっており、琴、三味線、尺八、太鼓などが用意してあります。また、学校間である楽器を貸し借りするということも実態としてあるように聞いております。指導については、音楽科の教員だけではなく、千葉市邦楽協会や能楽協会の協力を得た体験付きの鑑賞教室を行ったり、教職員の研修として、文部科学省が主催する伝統音楽研修に毎年計画的に参加して研鑽を深めるなど、教員の指導力向上にも努めております。

大山委員 2者を比べた感想になってしまうのですが、私の意見としては、まず、教育芸術社の方は、太鼓のページに関しては、左右のページに写真と説明が見開きであって、配列がとても見やすかったです。教育出版社に関しては、それぞれの楽器の特徴や演奏の仕方が大変丁寧だと思いました。篠笛につきましては唇の使い方が写真で大変大きく載っていて、同じく箏もそうだったのですが、特にエッジを立てるとかそのようなことも大変詳しく載っていて、なかなか普段生徒たちが見慣れない、聞き慣れないものなので、その辺りがピックアップされていて馴染みやすかったと思います。

小西委員 先ほど、ご説明の中で、「教科書で完結すると使いやすい」というご意見がありましたが、その意味では、大山委員からもありましたけれども、教育出版の方が手元、口元はどのように動かすかということについて、大きく写真が載っているなど、説明がより詳しく載っていると思いました。また、リコーダーの運指に関しても、教育出版はアルトとソプラノの両方が載っている点でも本市にはこちらの者の方が合っているのかなと思いました。

鶴岡教育長 私からも感想と意見です。

まず、目標についてですが、各単元の目標については、教育芸術社の方は大きく目標が一つ掲げられていて、教育出版の方は大目標と曲ごとに目標を書かれているので、おそらく、若手の教職員はこちらの方が使いやすいのではないかと思います。また、練習曲がいくつか載っているのですが、教育芸術社が16曲に対して教育出版の20曲と、難易度に合わせて選択ができるように

なっておりますので、その部分でも充実しているのかなと思いました。

教育芸術社の方の良いところは、世界各国の楽器の紹介が、コンテンツの方で見られるようになっておりまして、そういったところでは興味関心を引くコンテンツがあるなと思いました。私からは以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「音楽・器楽合奏」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「音楽・器楽合奏」の出版者は、「教育出版」及び「教育芸術社」の2者です。この2者から投票により決定します。事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「教育出版」5票

よって、「教育出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「音楽・器楽合奏」の教科用図書は、教育出版」と決定しました。

《美術》

鶴岡教育長 次に、「美術」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校美術について報告します。

本市の生徒の学力については、創造的な技能は優れていますが、作品への主体的な関わりが不十分であるといった傾向があり、主題を明確にし、自ら発想や構想を深めることや、根拠をもって主体的に作品を味わったり、価値意識をもって批評したりすることに力を発揮できないことに課題があります。従って、自己を見つめたり、自然や社会との関わりに視点を当てたりと、主題が明確になる表現活動や鑑賞活動が充実できる内容であり、美術における基礎的・基本的な指導事項が分かりやすく載せられているとい

った特色を有する教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず開隆堂ですが、学習指導要領への対応（１）では美術１の２ページのように、生徒の興味関心を高め、見通しをもって表現及び鑑賞の活動ができるように工夫されています。また、内容（２）では美術２・３の１２０ページのように、世界的に活躍するデザイナーや社会で活躍する人達を紹介するページを設け、美術や美術文化の必要性を考えられるように設定されています。

次に光村図書ですが、学習指導要領への対応（２）では美術１の３１ページのように、言語活動や体験活動の充実への配慮がなされ、他教科との関連がわかりやすく明記され、特に道徳との関連が特徴的です。内容の（２）では美術１の別冊資料２ページのように、発想を広げ、想像力を刺激する手立てを重視する構成となっており、技法動画や生徒のインタビュー動画を見られるなど、学びを深め、言葉を大切にできるよう配慮されています。

最後に日本文教出版ですが、学習指導要領への対応の（１）では美術１の６ページのように、小学校の図画工作から引き続き見通しをもって表現及び鑑賞の活動に取り組めるように工夫されています。また、内容（３）では美術２・３下の１１ページのように、「学びのはじめに」という導入動画が配置され、表現活動の際にタブレットＰＣの利用方法も記載されていて、ＩＣＴを活用した学びの充実が図られています。

以上で美術の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 今、中学校にいらっしゃる先生は、専門の教育を受けた美術の先生、あるいは、臨免等で美術の指導をしていた先生方の割合は多いのでしょうか。また、そのような先生方が指導するときにやりやすい教科書はあるのでしょうか。

福永教育改革推進課指導主事 美術の教員についてですが、経験年数の浅い、若い先生方、そして講師の先生方が多いという現状です。その点からみても、３者ともに二次元コードから見られるコンテンツが非常に充実しております。今まで作品だけであったものが、技法の動画であったり、鑑賞も写真だけではなくて、解説も付いていたり、３者ともに非常に工夫がされております。また、巻末や別冊の資料等で、道具や表現方法など、若い先生方が教えやすいような手立て

が記載されており、3者ともに教える側にとっても扱いやすい教科書となっております。

大山委員 千葉市は、千葉市美術館が身近にありますし、県の美術館も市内にあるので、子どもたちにとっても非常に恵まれた環境だと思いますが、絵を描くことは苦手だけれど、鑑賞は教え方で興味を持てる生徒が出てくると思います。

そこで、鑑賞に関して、興味を引くような特徴のある教科書がありましたら教えてください。

福永教育改革推進課指導主事 3者ともに、鑑賞においても、学習の造形的な見方、考え方の視点がまとめられており、また、作者の言葉ですとか、キャラクターが出てきて、子どもたちがその視点に気付くような働きかけを行っているページが記述されております。

例えば、開隆堂の13ページでは、下の方に「たくさんのスケッチを描きながら物語を広げてきたんだね」とキャラクターが吹き出しで呼びかけているページがあります。

あとは、日本文教出版では、26ページ、27ページの見開きの大きな屏風の鑑賞ページに、「実際に折ってみて、奥行きなどの見え方がどのように変わるかを見てみよう」というふうに投げかけがされているなど、表現だけでなく、鑑賞においても興味関心を引くような工夫が各出版者ともなされております。

鶴岡教育長 日本文教出版の神奈川県冲浪裏と、光村図書のこの図が同じ絵なので、こういった比べ方もしたいと思っています。よく見ると、質というか、見やすさというか、違いがありますが、こういう違いというのは子どもたちにどういう影響があるのか心配で質問したいと思います。この2枚は比べてみるものなのでしょうか。

福永教育改革推進課指導主事 こちらの作品は、版画となっておりますので、繰り返し何枚も刷ることができ、世界中に複数存在している作品となっております。光村図書の図版の方は、アメリカのメトロポリタン美術館で所蔵している作品を掲載しております。また、日本文教出版の図版は、日本のすみだ北斎美術館が所蔵している作品を掲載しております。

ご覧になっていただいているように、光村図書の方は、和紙のような風合いの用紙を採用して、質感の違いを感じられるような工夫がされているのが特徴です。また、日本文教出版の作品は、特殊インクで、高精細の印刷によって、特に藍色の違いを実際に

近い色味で印刷されているような工夫がされております。

鶴岡 教育長 日本文教出版の方は、素人で申し訳ないのですが、色が、北斎ブルーと聞いたことがあります、合っていますか。

福永教育改革推進課指導主事 はい。そこをやはり美術館さんと相談しながら高めていったというのが特徴の作品となっています。

鶴岡 教育長 ということは、作品を見比べるというものではないということですね。

福永教育改革推進課指導主事 所蔵している場所が違いますし、版画なので、刷られた時代ですとか、ちょっとした違いを楽しんでいただくのも鑑賞の一つかと思っております。

小 西 委 員 質問になるのですが、3者ともに鑑賞動画も大変充実しているなと思ったのですが、開隆堂だけ、アイディアシートであったり、鑑賞シートであったりが多数用意されているのが特徴的かなと思ったのですが、このアイディアシートや鑑賞シートに関して、調査員の評価として何か出た意見が出ていれば、その内容を教えてください。

福永教育改革推進課指導主事 調査員の報告によりますと、経験の浅い若手の教員ですとか、他教科からお手伝いいただいている先生には、ワークシートを活用して子どもたちの学びが深められるのではないかとというような報告を受けております。

高 津 委 員 各出版者のよいと思う点について申し上げます。日本文教出版ですけど、1年生の6ページから7ページ「ようこそ美術の学びへ」では、小学校の図画工作から、中学校の3年間の学びの流れを、子どもたちの作業する写真とともに分かりやすく書かれております。

それからもう一点。各教材に鑑賞の入り口というものが設けられていて、「何とかはなぜだろう」という見方や考え方のヒントがあって、これは若い先生方も視点が分かって子どもたちも学びやすく、先生方も教えやすいのではないかと思います。

開隆堂は、表紙の裏の見開きで、「図画工作から美術へ」で見られるように、小学生から中学生まで作品の制作や話し合いの様子等が笑顔で取り組んでいる写真が多く使われていました。開隆堂の教科書を見て、苦手な私でも美術は楽しいなと思えました。

光村図書の98ページ「美術史年表」では、日本、朝鮮、中国等世界の美術の流れが幅を持って見やすく配置されていて、その時代の美術作品、建築物等の写真が見やすく配置されており、大

変興味を持って見させていただきました。

鶴岡教育長 私からも感想、意見です。子どもたちの課題は、主体的な関わりが不十分だと。そして、主体性を持って作品に関わらせたいと言っていましたので、その部分でどの教科書がいいのかという視点を持ちました。子どもたちがより興味、関心を持って取り組むとしたら、そこに何か仕掛けが必要なのかなというように思うと、高津委員からあったように、鑑賞の入り口、表現のヒント、造形的な視点等々そういったポイントを付けながら作品を見られるような日本文教出版の方がより分かりやすいのかなという思いを持ちました。私からは以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「美術」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「美術」の出版者は、「開隆堂出版」「光村図書出版」及び「日本文教出版」の3者です。

この3者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「開隆堂出版」1票

「日本文教出版」4票

「日本文教出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「美術」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定しました。

《保健体育》

鶴岡教育長 次に、「保健体育」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校保健体育について報告します。

本市の生徒の体力・健康安全面について、運動能力調査結果では、1年男女においては、ほとんどの種目が昨年度の県平均に届

きませんでした。このことから、まずは生徒が運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分に味わうとともに、豊かなスポーツライフを築くうえで必要な、心身の健康についての実践力を身に付けていくことができるように授業の工夫改善を行うことが課題となります。従って、「学習のねらいが明確に示され、生徒の主体的な学びや、日常生活への実践を促すように編集・構成されている」といった特色を有する教科用図書を選定する必要があります。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的にご説明します。

まず東京書籍ですが、内容（２）では１４ページのように、見開きを１単元時間とし、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の４ステップを配置することで、主体的・対話的で深い学びの実現に配慮しています。また、内容（３）では１９ページのように、学びを深めることができるコンテンツが豊富で、特に、ワークシートについては、自分自身の生活を振り返って言語活動を取り入れた学習ができるよう工夫されています。

次に大日本図書ですが、内容（１）では１７ページのように、「活用して深めよう」の項目で学習した内容を整理し、理解させ、自分の生活に生かすことができるよう工夫されています。また、内容（６）では２１ページのように、口絵も含め、食育に関する資料が豊富に掲載されており、健康を支える食事について興味関心を高め、毎日の生活で実践できる内容となっています。

次に大修館書店ですが、内容（２）では１０３ページのように、「課題をつかむ」と「きょうの学習」により、学習状況を把握し、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組めるよう工夫されています。また、内容（６）では１７ページのように、各章の「とびら」では、学習内容が日常生活や社会とどのように関連しているかが分かるように配慮されています。

最後に学研ですが、内容（１）では１５５ページのように、「学びを活かす」により、生活を振り返り、学んだことを基にしながら、実践的な課題に取り組めるよう工夫されています。また、内容（６）では１２ページのように、「より良く生きる／より良く生きる世界をつくる」として、中学校生活の様々な体験がウェルビーイングに関わることを取り上げています。

以上で保健体育の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大 濱 委 員 3点ほど質問いたします。まず、性に関する問題についてですが、性の多様性については取り上げられていると思いますが、より踏み込んだ扱いをしている、例えば、L G B T Q、それから、今問題になっているのは性被害についてですが、性被害から子どもを守るということで、就学前から性教育をしているということに進んでいるのですが、性被害に関してどの程度記載されているのでしょうか。

次に、薬物乱用についてです。ここにきて急に、市販薬をオーバードーズしてしまうという、実は、今現在は、大麻とか覚せい剤、危険ドラッグの被害よりも一般の市販薬による薬物乱用が問題になっています。数年前まではなかった現象ですが、急激に増加しています。大麻や覚せい剤だと簡単に手に入れることはできませんが、市販薬というのは、お子さんでも買えてしまいます。色々な薬局で買っても分からない状況です。この点について記載はありますか。

最後は、感染症についてです。新型コロナウイルスが猛威を振るい、全世界的な問題になりましたが、そういった問題について、どの程度扱っているのでしょうか。新型コロナウイルス感染症に関しては画期的なメッセンジャーRNAワクチン、これはノーベル賞を取りましたけれども、そういったところも各者どの程度扱っているのかお伺いします。

杉本保健体育課指導主事 まず、性の多様性については、一番踏み込んでL G B T Qまで触れているのは学研で、66ページにあります。L G B T Q+等に触れるとともに、性の構成要素として、身体的性別、性自認、性的指向の3つの表記があります。また、ハラスメントについても取り扱われており、性の多様性に関する言葉について、中学生が正しい理解と判断ができるようになっております。

また、性被害については、2者が詳しく扱っております。まず、教科書内に特集資料が掲載されているのが大修館書店です。109ページにありますように、「性的な犯罪、暴力が起きないようにするために」として、性暴力と、人との身体的、心理的距離について記載されております。また、3ページ右上にあります、「web保体情報館」の二次元コードから、寄り添いホットラインのページにアクセスすることができ、その中で性暴力やその防止について学ぶことができます。

もう1者は学研です。53ページにあります二次元コードか

ら、文部科学省の生命（いのち）の安全教育動画教材を視聴することができます。この動画教材は20分程度の動画で、心と体の距離感、性的な暴力、もし性的な暴力の被害にあったらという形で構成されており、若手の先生方でもこの教材を使って授業ができるような内容になっております。

続いて、薬物乱用、オーバードーズについてです。オーバードーズについての記載はどの出版者も記載がございません。医薬品の取扱いの観点で、用法用量を守って医薬品を取り扱うことが示されております。特に、東京書籍と大修館書店の2者については、医薬品の使用量と作用の関係がグラフで示されているとともに、動画のコンテンツでもそのグラフの解説や医薬品の飲み方の解説がされており、中学生が理解しやすい工夫がされていると報告を受けております。

最後に、感染症の取扱いですが、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、各者の説明が加わったところについてですが、手洗いの方法や、マスクをつける理由や正しいマスクの付け方について、動画や写真の掲載が増えております。メッセージャーワクチンについては、細かい表記につきましてはまだありません。ただ、予防接種やワクチンが有効である旨の記載はございました。

鶴岡教育長 今、大濱委員からお話がありましたように、全国に先駆けて本市が取り組んでいるものの一つに性暴力への対応というものがあります。これは絶対に譲れないものですので、性暴力については、しっかり書かれている教科書を望みます。

そして、オーバードーズは大きな問題になっておりますので、勘違いしてはいけないのが、記載されていればいいのではなく、それがしっかり理解できるように記載されているかどうか、むしろ逆効果で、そういうこともできるというような知恵につながってしまってはまずいので、そういう記載がないかという見方をしながら見ました。

もう一点気になっていたのがストレスであります。子どもたちの自死であったり、不登校、いじめ等に深く関わるものの一つに、ストレスというのがあると思うのですが、中学生が抱えるストレスに対して、どのように対応するのか対処するのかという内容が書かれているもので特徴があるものがあれば教えてください。

杉本保健体育課指導主事 ストレスにつきましては、心の健康の観点のところで取り扱っております。4者ともに、心の健康を保つための方法として、

リラクセーションの方法を実習して扱うとともに、様々な相談窓口があることを取り上げております。中でも、ストレスにつきまして、中学生に対して分かりやすく表記されているのは東京書籍と学研です。東京書籍については、46ページに、ストレスのイメージを器とそこに注がれる水の関係として、イラストで分かりやすく説明されております。

学研につきましては、62ページにありますように、心身をゴムボールに例えてストレスについて説明しており、中学生が理解しやすい工夫がされております。また、学研につきましては、発展教材として、65ページの「心と体のSOS」の中で、いじめについて扱っており、相談できる、相談される関係性の大切さについて考えられるような工夫がされていると報告を受けています。

小西委員 意見ですが、私もLGBTQ+や性犯罪防止、いじめについては注意深く見させていただきました。バランスがよいのは学研かなと思っております。学研がよいと思ったのは、例えば、「薬物の使用は一回でも死ぬことがある」とはっきりと書かれておりましたし、イラストとか写真においては、例えば外国のタバコの警告表示ですとか、イラストや写真自体が印象的で情報が多く、ひと目で子どもたちの記憶に残りやすいかと思いました。

高津委員 今の意見を聞きながら、また私も読んでみて、学研がよりよく書かれているかなと、それぞれ内容的には各者ともによくできていると思います。学研はもちろん見開き1単位で色々な流し方で解説されていたり、章末では章のまとめで学んだことを最後チェックできるようになっていました。ストレスは、適度なストレスはどの会社も有意義、必要なものと書かれておりますが、それを超えてしまうと体がSOSを出してしまうということが分かりやすく表記されているのはいいと思いました。

最後に、190ページから191ページ「キーワードで見る保健体育の学習内容」ということで、体育編、保健編、体育実技、さらには各教科との関わりを示して系統的、発展的に学習できるようになっていると思いました。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「保健体育」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「保健体育」の出版者は、「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」及び「学研」の4者です。

この4者から投票により決定いたします。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「学研」5票

よって、「学研」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「保健体育」の教科用図書は、「学研」と決定しました。

《技術・家庭の技術分野》

鶴岡教育長 次に、「技術・家庭の技術分野」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校技術・家庭、技術分野について報告します。

本市の生徒に対する意識調査では、「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対して肯定的な回答が低い傾向があり、日常の事象と生活を結びつけた学習の改善が課題となっています。従って、生活に生かす、生活に結びつけるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があり、紙面にあげたような特色を持った教科用図書が求められます。

次に、観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応（1）では59ページのように、「問題の発見から課題の設定までの手立ての例」が適切に取り上げられ、深い学びの実現のための工夫がされています。また、内容の（2）では63ページのように、見開き右上の二次元コードにより他教科へのリンク機能が設けられ、動画、webサイトなどのコンテンツが豊富に用意されています。

次に、教育図書ですが、学習指導要領への対応の（2）で119ページの資料3「直列回路と並列回路」のように、他教科との関連を示すマークが掲載され、幅広い知識が身に付くよう配慮さ

れています。また、内容の（１）では「別冊スキルアシスト」により、教科書本紙とあわせて基礎技能を身に付けられるように工夫されています。

最後に開隆堂ですが、学習指導要領への対応の（３）では１８８ページのように、「技術による問題解決の流れの例」を適切に取り上げ、課題設定や解決を図る力を身に付けられるように配慮されています。また、内容の（２）では１７７ページのように、見開き右上の二次元コードで、学習課題ごとに豊富なコンテンツが収録され、スムーズに学習を進められるよう工夫されています。

以上で技術の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大山委員 技術分野における今後の課題の中で、「第３次千葉市学校教育推進計画」のキャリア教育の推進において、「一人一人が自分の良さや可能性に気付き、夢や目標、希望に向けて主体的に行動できる生徒の育成」とありますが、教材の中で、この辺りの特色がありましたら教えてください。

大橋教育改革推進課指導主事 冒頭にもありましたが、将来の夢や目標を持っているかという問いに対して、肯定的な意見が少ないという状況にありますので、日常の事象等と結びつけるということが必要になります。そのために必要な教科書としては、技術の見方や考え方や、生活の営みに係る見方、考え方を習得することができる内容が必要となっております。また、実践的、体験的に進められるという特徴が必要となっております。

そういった意味で開隆堂に関しましては、ガイダンスによる見方、考え方を取り上げて、各内容を深められるような内容となっております。また、各内容の出口でこれからの技術について考えさせるような話題を取り上げて将来の技術についても関心を持てるよう工夫がされております。

東京書籍については、ガイダンスにおいて「技術のめがね」「最適化の窓」として技術の工夫に気づく配慮がされています。

教育図書については、１章から３章を、学習指導要領の（１）から（３）の内容に対応させ、関心の喚起、技術の活用へと徐々に育まれるような工夫がされていると報告を受けております。

鶴岡教育長 それでは質問します。先ほど説明の中に、教育図書の方で、別冊のスキルアシストについてご説明がありましたが、簡単に教科書本紙とあわせて身に付けられるように工夫されているという

話があったんですけれども、もう少し別冊になっていることの意味であったり、使い勝手であったり、別冊がなければならないのかを、その辺りは他者と違うので教えてください。

大橋教育改革推進課指導主事 教育図書のスキルアシストについてお答えします。基本的には基礎・基本を身に付けるための道具の使い方であったり、操作方法などに特化されているものになっております。先ほど説明にもありましたが、課題を解決するということが授業で一番必要なこととなりますので、教科書の課題解決と見比べたり、一緒に使用したりするために使うものというように考えております。

高 津 委 員 意見を述べます。3者ともそれぞれよくまとまって書かれていると思いましたが、私は開隆堂がよいかなと思いました。一つは、先ほど説明がありましたが、問題の発見と課題の設定から、評価・改善までその流れが非常によくまとまっていて見やすいです。Aの材料と加工の技術、Bが生物育成の技術、Cがエネルギー変換の技術、Dが情報の技術、それぞれの分野でも同じように分かりやすくできていると思います。また、インタビューコーナーでは達人が自分の仕事の夢を語って、中学生に二次元コードで、達人の声で優しくメッセージを送ってくれる。これは中学生が感じるものはあると思いますので、ぜひ中学生には聞いてほしいと思いました。

また、技術科では怪我を伴う事故が起きやすいという問題がありますが、作業の際の事故対策として安全マークが付いていて、電気機器では発火注意マークがあって、安全について十分配慮している教科書だと思いました。

最後に、巻頭の「ひみつ道具は実現している？」というのは、ドラえもんが登場していて夢のある楽しいスタートになっておりました。以上を踏まえて、やはり開隆堂がよいかなと思いました。

小 西 委 員 私も意見になりますが、単元ごとに課題設定から問題解決まで思考プロセスが大変丁寧にされている点であったり、デジタルコンテンツが充実している点、あとは他教科との関連性などの点で、開隆堂か東京書籍のどちらかがよいかなと思いました。

特に、千葉市の教育大綱にキャリア教育が掲げられていますので、キャリア教育については少し重点的に見させていただきました。3者ともインタビューが取り上げられていますが、東京書籍は、数という点では多くの仕事の紹介がなされておりました。他

方で、開隆堂は、仕事の紹介のみならず、やりがい、きっかけ、子どもの頃のエピソードと、一人一人のキャリアについて非常に丁寧に書かれていましたので、子どもたちがロールモデルとしてより身近に感じやすいだろうと思いました。鶴岡教育長 私も、課題に、生活に生かす、生活に結びつけるといった特色を持った教科書を選びたいというご説明があったので、その部分に着目しながら確認したところ、やはり、開隆堂、東京書籍の2者かなと思います。ただ、見た目だけなのですけれども、開隆堂は先ほどの歴史のときに話があったのですが、この横のページで見つけるのに、開隆堂だけ見つけにくいですね。ここだけ改善してほしいなと個人的には思います。私からは以上です。ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「技術・家庭の技術分野」の教科用図書を決めます。それでは、採決に移ります。「技術・家庭の技術分野」の出版者は、「東京書籍」「教育図書」及び「開隆堂出版」の3者です。

この3者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」1票

「開隆堂出版」4票

よって、「開隆堂出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「技術・家庭の技術分野」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定しました。

＜技術・家庭の家庭分野＞

鶴岡教育長 次に、「技術・家庭の家庭分野」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校技術・家庭、家庭分野について報告します。

本市生徒の学力については、総合展覧会の出品状況をみると、自分の生活を見つめ、課題を解決するために粘り強く調べたり製

作したりした作品は少ないことから、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度に課題があります。従って、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出すして課題を設定する問題解決的な学習を重視し、習得した知識及び技能を実生活で活用しながらよりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度の育成を図ることが必要であり、紙面にあげたような特色をもった教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的にご説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応（３）では１８ページのように、マークやイラストでイメージを持ち、学習の過程で家庭分野の見方・考え方を働かせて理解を深めることができるよう配慮されています。また、内容の（４）では１８２ページのように、リンクマークで他教科などとの関連を示し、Dマークがあるものは二次元コードから関連する内容の教科書紙面が見られるよう工夫されています。

次に教育図書ですが、学習指導要領への対応（２）では８ページのように、「見つめる」「見つめてみよう」から「学ぶ」「振り返る」を経て「学びを生かそう」を繰り返す問題解決的な学習の流れで紙面が構成されています。また、内容の（３）では１９７ページのように、地域や社会で活躍している方や先輩学生などからのメッセージを掲載し、職業や生活との関連に気付き、自らの進路を想像し、考えやすくする工夫があります。

最後に開隆堂ですが、内容（１）では２９６ページのように、一人一人が家庭や地域の課題を見つけ、学習したことを活用して課題を解決するための実践方法やまとめ方を掲載しています。また、内容（２）では８０ページのように、家族や幼児・高齢者など異なる世代の人たちとの関わりや、地域の中で共に生活する視点から多様な他者を理解できるよう配慮されています。

以上で家庭分野の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

それでは私から質問いたします。

家庭科の授業の一つに、調理実習というのがあると思いますが、実習に当たってはケガ等を含め、安全安心が大事なかなと思います。その点について特徴のあるものをまずお知らせいただきたいのが一つです。

もう1点は、昨今の日本の人口構成からして、家庭科は幼児に対する色々な学びはこれまでやってきたのですが、それと同時に高齢者との関わりというのがとても大事になってくるのかなと。もちろん学ぶものではないのですが、ヒントとなるような題材といいますか、視点も大事かなと思います。この2点について伺います。

鳥羽教育指導課主任指導主事

まず、1点面の実習の安全配慮についてです。3者とも丁寧な記載があると報告を受けています。東京書籍ですけれども、8ページ、9ページのところで、「実習を楽しく安全に進めよう」という全体的なことがありまして、細かく記載があります。さらに、64ページ、65ページのところでは、さらに「実習の衛生と安全」ということで、衛生的な扱い方、ガスコンロを使うときの注意等の詳しい記載があります。

教育図書は、12ページ、13ページで「実習は安全に取り組もう！」ということで、特徴的なのは13ページで、危険な取り組み方をしている人を見つけようということで、なぜ、どこが危険なのか、考えさせるような工夫があります。

開隆堂では14ページ、15ページです。教育図書と同じように、下の方ではどんなことに気を付けなければいけないのか、15ページでは何が大切かというような、考えさせるような記載があります。118ページ、119ページのところでも、さらに詳しいポイントということで衛生や安全についての記載があります。

続きまして、高齢者との関わりです。これは、今回の学習指導要領で少子高齢社会へ対応して新設された内容となっています。

まず、東京書籍です。262ページから「家族と地域の高齢者とのかかわり」として取り扱っております。

次に、教育図書ですが、26ページのところから、「高齢者との関わりを知ろう」という題材で取り扱っています。

そして開隆堂は、78ページから「地域で活動する高齢者」ということで、3者とも高齢者の身体的な特徴、どのような体の変化があるか、それから介助の仕方についての記載があります。また、開隆堂については、高齢者介護についての記載もあります。家族だけで抱え込まず、地域のサポート制度を利用することができるという、より踏み込んだ記載となっています。

鶴岡教育長

以前は、三世代家族とか、家に帰ればおじいちゃんとかおばあ

ちゃんがいる、いわゆる、先ほど課題で、実践的な態度の養成が課題と言っていたので、家に帰って学んだことを実践できたらいいのですが、今はなかなか、核家族化していてそういったことが自宅で実践できないので、いかに教科書で学ばせるというか、知らせるというか、そういったことが大事になってくるかと思いましたので、私はそこを詳しく見させていただきました。

小 西 委 員 意見になりますが、デジタルコンテンツに関して、いずれの者も、4年前に比べて大変充実しているなと感じました。特に東京書籍の調理動画について、なぜここで塩を振るのかなど、ポイント解説も含めて動画の中でしっかり解説されていて一番丁寧だと思いました。教科書の内容自体はどの出版者も大変分かりやすかったのですが、仕事柄、これまで多くの家庭問題を扱ってきた中で、家庭であったり家族を考える際、多くの問題の背景の根本には、根深いジェンダーの問題であったり、性別役割分担意識の問題があると感じていまして、これを正面からしっかりと扱っているのが開隆堂だけでした。

他にも、本市の教育大綱の一つとしてヤングケアラーの問題がありますけれども、この点について記載があったのも開隆堂だけでした。このほかにも、デジタルコンテンツの内容であったり読みやすさであったり、総合的に見て私は開隆堂がよいかと思っています。

高 津 委 員 私もどれがよいかなというと、開隆堂がよりよいかなと思いました。特に開隆堂の単元の右の大きな写真が大変よかったと思います。例えば、16ページから17ページの「家庭・地域・家族」は、まさにそれぞれ理想の写真ではないかと思いました。これ以外にも、割合、開隆堂は写真の使い方がとてもよかったと思いました。

それから、18ページから19ページでは、「今の自分とこれからの成長」として、ここにはたくさんの人達が描かれています。もちろん他の出版者も同様に描かれています。開隆堂はイラストが、乳児、幼児等々、その時期に沿って分かりやすく感じました。また、20ページから21ページは中学生に特化して学習を深めようとしているのがよいと思いました。また、もちろん他の2者も取り上げていますが、開隆堂はこどもの権利条約を2ページにわたって大きくはつきり書かれていて生徒にとっても大変分かりやすく書かれていてよかったと思います。

東京書籍は各教材のはじめに目標が書かれていて、チェックできるような欄があって、授業が終わった後、自己評価をするときに、目標が達成されたかどうかを確認するのも視覚的にとてもよかったと思います。

でも、全体的には開隆堂がよいと思いました。

鶴岡教育長 私の方からも、先ほど、家族、家庭生活について話をしたのですが、やはり開隆堂の方が「これまでとこれからの自分」という比較があって、「日本というのは、自己肯定感が低い国なんだ、さあ、どう振り返っていかうか」、などの具体的な示しがあって、また他者理解の促しもあって、そういった部分でしっかり書かれているのかなと思いました。また、消費者トラブル、中学生はオンラインゲームで課金することも最近多くなっているので、そういったところは各者ともしっかり触れていたのも、大差がなかったように感じました。私からは以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「技術・家庭の家庭分野」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「技術・家庭の家庭分野」の出版者は、「東京書籍」「教育図書」及び「開隆堂出版」の3者です。

この3者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「開隆堂出版」5票

よって、「開隆堂出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「技術・家庭の家庭分野」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定しました。

ただいまの時刻は16時47分です。ここで休憩を挟むことといたします。会議の再開は16時55分といたしますので、よろしくお願いいたします。

《休憩》

《英語》

鶴岡教育長 会議を再開します。

次に、「外国語 英語」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校外国語について報告します。

本市の生徒の学力については、正答率は各観点とも全国平均を上回っているものの、「聞くこと」では、要点や必要な情報の聞き取り問題で正答率が6割以下です。「話すこと」では、社会的な話題に関しての考えを話すことに課題があります。「読むこと」では、文と文との関係を正確に読み取ることに課題があり、「書くこと」では、記述式問題の無回答率が高い傾向があります。また、すべての領域において、語彙や表現などを異なる場面で繰り返し活用して自分の考えを表現する力を高めることが課題となっています。従って、本市生徒には、4技能5領域を統合し、学習したことを繰り返し活用する活動ができる教科用図書、具体的には紙面にあげたような特色を持った教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍についてですが、内容の(1)では1年87ページのように、ラウンドリーディングは概要から詳細という流れに表現活動も含まれており、適切かつ効率的に読解力を身に付けられるよう工夫されています。また、内容(6)では1年10ページのように、巻末に付属している語順カードを並べていくことで視覚的に文型や文の語順が分かるように工夫されており、様々な文をつくるできるようになっています。

次に開隆堂出版ですが、内容(1)では2年38ページにあるように、絵や写真をヒントにして本文の内容を振り返り、自分の言葉で表現することができるよう配慮されています。また、内容(6)では2年34ページのように、題材に関連した写真やクイズ、動画やリスニング活動などを通した題材の導入が図られており、英語に苦手意識がある生徒でも興味関心を持つことができるように工夫されています。

次に三省堂ですが、内容(4)では3年67ページのように、日常生活を題材として取り上げ、様々な価値観を受け入れる意識

を高めていくことができるように工夫されています。また、内容（６）では、１年１１６ページのように、状況設定が実生活に根差しており、情報を適切に読み取り、必要なものは何かを判断する力を身に付けられるような構成になっています。

次に教育出版ですが、内容の（１）では３年２７ページのように、パターンプラクティスから聞く・話すという活動の流れで構成されていて分かりやすく、理解を深めることができます。また、内容（３）では１年１０７ページのように、「まなびリンク」により協働学習・個別学習だけでなく、録音音声認識での発音チェックやリーディングコンテンツ、文法解説動画など、家庭学習でも活用ができるように工夫されています。

次に光村図書ですが、内容（１）では１年１０７ページのように、ストーリー性のある本文で目的・場面・状況がはっきりとしており、本文の最後続く英文を考えさせる活動で内容を深めることができるように工夫されています。また、内容（２）では２年裏表紙の綴じ込みのように、「何ができるようになればよいか」という視点でＣＡＮ－ＤＯリストが全単元について一覧表にまとめられており、学習状況が確認しやすいように配慮されています。

最後に啓林館ですが、内容（６）では２年６４ページのように、各課の全パートにEnjoy Chattingという本文の題材に関する問いが提示されており、ペアでの会話活動などで活用することで「即興でやり取りする力」を養うことができるように工夫されています。また、印刷製本では、本文にユニバーサルデザイン書体を使用して見やすく読み違えにくくなっており、１年１１８ページのように、１年生の教科書はすべて小学校英語で使われていた手書き文字に近い書体とし、小中連携に配慮されています。

以上で外国語科の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

大山委員 ３点ほど質問します。

まず、１つ目は英語に関しては小学校、中学校で職員間の情報交換をされていると思います。研修などもしているかと思うのですが、それにどれくらいの時間を費やしているのか教えてください。

２つ目ですが、教科書の中で、小学校からの学びが接続されて

いますが、中学校のギャップをクリアするために配慮されている教科書があったら教えてください。

3つ目は、本市の課題である「書くこと」「話すこと」のパフォーマンスのために、デジタルコンテンツの活用が重要になると思います。家に帰っても勉強できると思うのですが、生徒が使用しやすい工夫をしている教科書がありましたら教えてください。

遠藤教育指導課指導主事

小中連携についてですが、教育委員会としても、研修の機会を設けております。5月に教科主任等研修会ということで、小学校、中学校の外国語科の主任が集まるところで情報交換等を行っております。時間としてはそれほど長くはなく、20分程度で行っております。

また、小学校、中学校それぞれにおいて、様々な研修の中で、それぞれの状況を把握しましょうということは常に働きかけておりますし、小学校の先生が中学校の授業を参観したり、あるいは逆に中学校の先生が小学校の授業を参観したりといった、小中連携も推進しているところです。

次に、中学校のギャップについてですが、小中のギャップで一番大きなものと考えられるのは、小学校では、読み書きよりも、聞く、話すといった、音声中心の学びになります。その音声中心の学びから、中学校に行くと、どうしても読んだり書いたりというものが多くなってきますので、その辺りはどの教科書も様々なページでギャップを埋めるための努力をしていると思います。例えば、光村図書でしたら、「小学校英語からの橋渡しページ」ということで、小学校で学んだ表現や、つづりの文字と音との関わりについて内容を学ぶことができるような配慮がされております。また、開隆堂では、音と文字との関連について、1年生の始めに学べるように配列が工夫されております。また、三省堂では、小学校での学びを踏まえ、四線を使うものや、文字をなぞる等の活動を取り入れて、円滑な接続をするように図っております。

それから、3点目のデジタルコンテンツに関してですが、デジタルコンテンツについては、各出版者とも、二次元コード、また学習者用デジタル教科書を通して、家庭学習や総合的な学習に活用できるように配慮されております。各出版者とも、教科書本文や、教科書中の聞く活動の音声が収録されているという点は共通しています。

その他に、文法の解説の動画や、発表する課題であれば、その

モデルを示すような動画を見ることができるよう発行者と
に工夫されております。その中でも、東京書籍、三省堂、光村図
書は特に内容が充実しているものがあるかと考えております。

まず、東京書籍では、「読み物の素材集」や、「用例辞典」と
いうような機能があり、カナダの中学生の自然なスピードで話す
ような動画が多数収録されており、学習意欲を喚起するような工
夫がされております。その他、口の形を動画で示すような動画が
あったり、あるいは、S m a l l T a l k といって、よく授業
の冒頭で行うような、簡単な質問を投げかけるような動画等が用
意されております。

三省堂に関しては、英和辞典の機能がったり、あるいは口の
動きを確認できる「発音図鑑」というものがあります。また、自
分の発音をチェックできるような機能が付いており、また、それ
と同時に、様々な題材についての多数の資料動画もあります。そ
ういった点で優れています。

最後に、光村図書ですが、特筆すべき点として本文の内容を実
写版ドラマで見ることができるようになっております。

そういったところで各出版者とも、特徴があります。学習者用
デジタル教科書でも、そういった情報にアクセスすることができ
ますし、また、再生スピードの調整等々の機能は各出版者とも取
り揃えているところですが、今申し上げた３者に関してはこのよ
うな特徴があるということで報告を受けております。

小 西 委 員 質問ですが、デジタルコンテンツを全て見ることはできなかつたのですが、スピーキングという点で、今、世の中だと、A I と会話する形でスピーキングの練習ができるというようなアプリなどありますが、今回のデジタルコンテンツの中で、スピーキングの練習ができるようなものはあるのでしょうか。

遠藤教育指導課指導主事 スピーキングに関して申しあげますと、スピーキングの参考になるような動画を見たりというようなものは、各出版者とも工夫しておりました。例えば、教育出版でしたら、キーセンテンスを音声認識機能を使って発音をチェックできるような機能が付いておりました。また、各種やり取りの見本動画もあります。なお、生徒が発した音声に対して何かアクションをしてくれるというのは音声認識入力以外ではなかなかないということで報告を受けております。

鶴岡教育長 私からも質問ですが、本市の実態として、簡単に言ってはいけ

ないとは思いつつあえて言ってしまうのですが、いわゆる、ペーパーテストは点が取れるのが平均的に多いのですが、話すことに苦手意識を持つ生徒が非常に多いというところがここずっと課題としてある状況です。そのため、書くこと、話すこと、聞くこと、色々課題はあるのですが、特に、話すことに課題を持って取り組んできたのは実態かなと思います。そこで、学習指導要領も書いてありますが、「How are you?」と聞いて「Fine thank you」のように、お決まりの話の練習をいくらしてもあまり意味がなくて、即興性という言葉で、今まで習った言葉、単語で、何とか自分で表現しようというところを何度も何度も練習することが大切だと言われて、ここまでやってきました。そういったところを大切にしている教科書、先ほどもいくつか説明がありましたが、その部分の説明をもう一度していただいてよろしいですか。

遠藤教育指導課指導主事 即興性を重視したというところで申し上げますと、即興性を伴う話すこと、言語活動として考えられるものは、二種類あると思います。一つは話すことのやり取りの領域です。やり取りですから、当然即興的な要素が問われます。

もう一つは、話すこと、発表という領域がありますが、その発表の中でも、原稿を用意して読むような形の発表ではなく、簡単なメモ等を基にして即興的に話すというような活動が考えられるかと思います。そういったところから踏まえて、調査結果報告を受けているものをご説明します。

まず、開隆堂ですが、話すこと、やり取りの活動を各学年の複数の単元において、重点的に学習できるように構成されていることに加えて、各単元の「Review & Retell」というコーナーがあり、そこでは、簡単なメモを基に、教科書本文の内容を伝える活動というのが設定されており、即興性を伴う話すことの活動が充実していると言えます。

また、啓林館ですが、各単元の各パートに「Express Yourself」というコーナーがあり、ここでは、英語でやり取りをする活動を数多くできるように構成されていることに加え、また、多くの単元に「Think & Speak」というコーナーがあり、簡単なメモを基に英語を話す活動が設定されており、即興性が重視されているということが言えます。

また、もう一つ挙げますと、教育出版では、話すこと、やり取

りの活動を各学年の複数の単元で重点的に学習できるように構成されていることに加えて、3年生の86ページでは、「即興で話すことを組み立てるコツ」ですとか、「即興スピーチ上達のコツ」というものが掲載されている点で、即興性を育む中で参考になっていくものが掲載されていると考えられるということで報告を受けています。

鶴岡教育長 もう一点伺います。先ほども少し言っていたのですが、A B C Dのアルファベットの動画で発音練習をする動画が各出版者あるのですが、とくに、「t h」や「c h」などの舌の使い方とか、本当に動画で口をアップしていて、そういったところでも話す自信というか、そういうものを作るきっかけになるものをいくつか見たのですけれども、確認の意味で、そういったものを大事にしている教科書を教えてください。

遠藤教育指導課指導主事 東京書籍では、口の形が見られる動画が多数紹介されております。これは実写で、実際のネイティブスピーカーと思われる方が発音するものを映像で写したものです。これは非常に参考になると思います。

もう一つは三省堂です。三省堂は「発音図鑑」というものがありまして、これはアニメーションで、口の中の形まで表すようなものになっております。例えば、英語独特の、口の中で舌を挟むような動きや、息をどのようにして出していくのかとか、そういった舌の動きまで表すような形で作られている動画が特筆されるものとして挙げられるということで報告を受けております。

鶴岡教育長 その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「外国語 英語」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「外国語 英語」の出版者は、「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」及び「新興出版社啓林館」の6者です。

この6者から投票により決定します。

事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「開隆堂出版」 4 票

「三省堂」 1 票

よって、「開隆堂出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「英語」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定しました。

《特別の教科・道徳》

鶴岡教育長 最後に、「特別の教科・道徳」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 中学校道徳について報告します。

本市の生徒の状況については「勤労意識や責任感が強く、中学生は小学生に比べると自律心や責任感の向上が伺える」といった傾向があり、「自己肯定感や自己有用感を高めたり、自分のよさや可能性に気づき、夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できるようにしたりすること」に課題があります。従って、「教材のねらいが具体的で、生徒が自分との関わり合いで道徳的価値を捉え、主体的に考え、議論でき、日々そのような学習を積み重ねることができる」ことが必要であり、紙面にあげたような特色を持った教科用図書が求められます。

観点については紙面をご覧ください、調査結果を具体的に説明します。

まず東京書籍ですが、学習指導要領への対応の（3）では3年107ページのように、新聞の投書欄を教材化し、様々な人の意見を基に多面的・多角的に考えられるように工夫されています。また、内容の（1）では2年50ページにあるように、写真を見て自ら問題を見出だし、その問題についてグループや学級で話し合う活動ができるように配慮されています。

次に教育出版ですが、内容（3）では2年8ページのように、生徒にとって身近な問題や葛藤を題材に、心情メーターを使って思考が見える化し、対話を促すように工夫されています。また、内容（4）では、3年118ページのように、社会科公民的分野の学習や主権者教育と連携させ、高等学校での「公共」につながるように配慮されています。

次に光村図書ですが、学習指導要領への対応（3）では1年2

3 ページのように、教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げる絵が配置され、自ら考えようとするための配慮がなされています。また、内容（2）では2年66ページのように、職場体験活動と関連できるように、キャリア教育を意識した教材が配置された構成となっています。

次に日本文教出版ですが、学習指導要領への対応（2）では2年64ページのように、いじめを直接的及び間接的に扱った教材を取り上げ、いじめと向き合うユニットを年間に複数配置した構成となっています。また、内容（2）では3年12ページのように、いまを生きる人たちの様々な苦悩や努力を取り上げた教材から、人間の生き方について考えを深めることができるように工夫されています。

次に学研ですが、学習指導要領への対応（1）では全学年9ページのように、「考えを深める4つのステップ」順に授業を進めることで主体的に学びを深めるための工夫がなされています。また、学習指導要領への対応（2）では3年30ページのように、現代的な課題に対して意欲を持って取り組む態度を養えるよう配慮されており、関連する教材を複数時間扱いで多面的に活用する指導もできるように工夫されています。

次にあかつき教育図書ですが、内容（1）では3年14ページのように、ねらいに迫る発問を設定し、自分を見つめ、対話を促し、自分に問い直す流れにより、考えを深めることができるよう工夫されています。また、内容（2）では2年60ページからの4つの教材にあるように、キャリアを重点的に学習できるようにユニット化し、様々な視点から考えを深めることができる構成となっています。

最後に日本教科書ですが、学習指導要領への対応（3）では全学年6ページのように、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用することで、自分の意見を伝えやすく対話しやすい環境をつくる工夫がなされています。また、内容（4）では2年88ページのように、現代的な課題に向き合い、18歳選挙権に伴った社会問題に目を向け、政治参加の意欲を育てる教材を配置しています。

以上で道德の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

高津委員 それでは、2点お伺いします。

1点目は、現在、日本文教出版で授業を行っており、道德ノー

トを使っていますが、これの有効性について伺います。

2点目は、今、子どもたちはスマートフォンを持ってSNS等が普及してきて、色々とトラブルが発生していると聞いていますが、情報モラル教育について、教科書はどのように扱っているのかお聞きします。

多田教育指導課指導主事 まず、道徳ノートの有効性についてですが、現場の先生からの報告としましては、ノートは必ずしも必要ではないと聞いております。ただ、ノートがあった方が生徒の感想や意見を集約するのにポートフォリオ的に使えるので、非常に便利であると聞いております。また、生徒からは、いつも同じような書式でノートを書きますので、週に一回の授業ですから、慣れ親しんだ形で意見や感想を書けるという意見が報告されております。

2点目の情報モラルについてですが、各出版者とも、重点的に取扱っており、いじめ問題と関連してユニットを組んでいる出版者が多くあります。また、東京書籍、日本文教出版、学研等は教材にコラムをあわせることによって学習を効果的にしたり、また、教育出版におきましては、家庭との連携を意識した情報モラル教育という点が特徴的との報告を受けております。

大 濱 委 員 先ほど教育長もおっしゃっていましたが、日本の子どもたちは諸外国に比べて自己肯定感が極端に低いです。これは問題だと思いますが、この点について、各出版者とも、どのように扱っておりますか。

多田教育指導課指導主事 生徒の自己肯定感について各出版者とも、工夫がなされております。

例えば、教育出版においては、様々な人物の生き方をロールモデルとして自分らしく生きる意欲を育むことによって、生徒の自己肯定感を高めるという工夫がなされています。

また、光村図書においては、生徒自身が問いを作って話し合いながら考えを深めていく過程を通して自己肯定感や自己有用感を高めるという教材とあわせて、指導方法の工夫のようところで、自己肯定感を高める工夫がなされております。

他にも、学研においては、悩みや葛藤、心の揺れの教材において、人間関係の理解等を扱うことによって自己肯定感を高めるという工夫がなされています。

小 西 委 員 2点質問します。

ワークシートに関するものですが、まず、東京書籍のデジタル

コンテンツのワークシートですが、これは、千葉市のギガタブに落とし込んだ場合、子どもたちが書き込んだり保存したりできるものなのではないでしょうか。これが1点目です。

次に2点目ですが、光村図書の場合、巻末のワークシートに「学びの記録」というものがあるのですが、もし、光村図書にした場合、この「学びの記録」のみで完結できるのか、もしくは実際の授業で先生方が紙のプリントであったり、子どもたちがノートを用意することになるのか、見込みの話にはなってしまいますが、分かれば教えていただければと思います。

多田教育指導課指導主事 まず、1点目の東京書籍のワークシートですが、調査員が試したところによりまと、現在使用しているギガタブでは対応可能と聞いておりますが、実際に活用はしておりませんので、どのような問題が起こるのかについては分かりません。

2点目の、光村図書の巻末についてですが、調査員の報告によりますと、これだけでは足りないということです。あくまで教科書の後ろであり、学習の経過を振り返ることにとっては有効ですが、これのみで50分の授業を行うことは難しいとの報告を受けております。

大 山 委 員 単位時間よりも大切な授業だと捉えております。教科化してから、小中全国統一キーワードの22というものを取り上げてみなさん作られていると思いますが、各出版者において、いじめ軽減の幅が違っているのだと思います。千葉市としては、どのあたりに重点を置いているのか伺います。

多田教育指導課指導主事 ご指摘のありました通り、各出版者は、重点を置くところは違いますが、大きな特徴として、生命の尊さに重点を置いているところは、各出版者共通していると思います。本市においても、もちろん生命の尊さ、自己有用感というところが課題ですので、自分自身のよさや可能性に気付くというところ、それから、人権等を重視しているところです。

鶴岡教育長 私からも2点質問します。

特別の教科道徳になって、教科ですので当然やらなければならないものですが、はるか昔はなかなか道徳と言っても、という時代があったと聞いておりますが、教科化したがためにやりやすい、取り組みやすい教科書が中心的に選ばれてきたのではないかと思います。そこを、深化させる道徳にシフトをチェンジしていかなければいけないのではないかと思います。先ほど、道徳ノー

トについては、親しみやすい云々の話がありましたが、ややもすると、なあなあになってしまっただけとはいえないかなという懸念があります。そういったところは今後検討しなければいけない材料の一つかなと思います。加えて、教科化に伴い、議論する道德という言葉がキーワードになったと思うのですが、この議論する道德について、何か見解がありましたら教えてください。

多田教育指導課指導主事 議論する道德に関しましては、やはり教材の力というのが大きいかなと思います。例えば、教育出版では、一年生の「ヤクーバとライオン」という教材がありまして、現場でも非常に人気が高いものなのですが、どちらにするか葛藤するという教材を使って考え、議論する道德に導いています。同じように、光村図書では、「ゆるすってなんだろう？」という教材。あかつきにおきましては、「北の大地から 野生の猛禽を守る」という教材で、野生の命と人間の暮らしの葛藤。そして、日本教科書では「自由ってなあに」ということで、哲学的に問いかけるような議論をするように誘導する、魅力的な教材を各出版者で掲載していると報告を受けております。

鶴岡教育長 もう1点。本市の重要課題の一つに、不登校、いじめというものがある、取り組んでいるところでありますが、この点についての何か見解がありましたら教えてください。

多田教育指導課指導主事 いじめについても、各出版者で工夫を凝らしており、例えば、東京書籍では、間接的ではなく、直接的にいじめ問題を扱う教材となっております。また、学研では、漫画、コミックの一場面を利用していじめについて考えるという教材が掲載されています。また日本文教出版においては、いじめに関して年2回から3回、複数回ユニットを組んで、考える時間を取るように工夫がなされていると報告を受けております。

小西委員 意見になりますが、私は東京書籍、日本文教出版、光村図書の3者で悩みました。

東京書籍はとにかくデジタルコンテンツが豊富で、冒頭の「道德」とはという定義からして議論することや、対話をするということについての意識付けが大変強いと思いました。

日本文教出版は、いじめの四層構造であったり、インターネットの恐さ、性の多様性など、いじめというものについて一番丁寧に、かつ多面的・多角的に扱っていると感じました。扱われている教材の内容自体も、これは個人的な好みになってしまうかもし

れませんが、愛情をテーマにした優しいものが多いと感じました。

光村図書はほぼ全てのテーマに「見方を変えて」という設問があって、別の登場人物から捉え直す癖を付けることで、多角的視野を身に付けようという、こういう手法は子どもにとって分かりやすく面白いだろうと思いました。ただ、いじめを語るときに、いじめの四層構造の理解はやはり外せないと思うのですが、光村図書の教科書には載っていませんでした。デジタルコンテンツの中では説明があったのですが、教科書自体には載っていなかったのも、その点は残念に感じました。

迷ってはいるのですが、仮に今のまま、日本文教出版にするのであれば、心配しているのがノートの活用についてです。ノートがあると、議論したり考えたりする時間をとることよりも、ノートに書いて、友達同士で発表しあっておしまい、というような形になってしまっていないか不安を感じています。

仮に日本文教出版になったとしても、より議論をする、子どもたちにしっかりと考えさせる、ということをしつかりと意識した授業を進めていただきたいなと思います。また、今回、日本文教出版は、デジタルコンテンツの中に、別冊ノートと全く同じデータがありました。千葉市はICT活用を促進しているところなので、ぜひ、ノートを使う際には、ICTもどんどん活用していただきたいと思います。

鶴岡教育長 私からも意見です。

本市の生徒の課題からすると、私も日本文教出版と東京書籍で悩んでいるところです。小西委員からもあったように、日本文教出版については、命の大切さというところが重要視されているという部分、東京書籍については対話、話し合うというところをしっかりと取り組んでいただく内容が多かったので、そういったところが本市の生徒には必要だと思って見させていただきました。以上です。

その他にご意見等ありませんか。

ご意見、ご質問等がないようですので、これより、令和7年度に、本市立中学校において使用する「特別の教科・道徳」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

「特別の教科・道徳」の出版者は、「東京書籍」「教育出版」

「光村図書出版」「日本文教出版」「学研」「あかつき教育図書」及び「日本教科書」の7者です。この7者から投票により決定します。事務局は、投票用紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告します。

「東京書籍」1票

「日本文教出版」4票

よって、「日本文教出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと存じますが、如何でしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和7年度に本市立中学校において使用する「特別の教科・道徳」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定しました。

以上で、議案第181号に係る、「令和7年度使用千葉市立中学校用教科用図書の採択について」の採択が終了しました。

確認をします。教科書名と出版者名を申し上げます。

国語（国語）「光村図書出版」

書写（中学書写）「教育出版」

地理（新編 新しい社会 地理）「東京書籍」

歴史（新編 新しい社会 歴史）「東京書籍」

公民（新編 新しい社会 公民）「東京書籍」

地図（中学校社会科地図）「帝国書院」

数学（未来へひろがる数学）「新興出版社啓林館」

理科（未来へひろがるサイエンス）「新興出版社啓林館」

音楽 一般（中学生の音楽）「教育芸術社」

音楽 器楽合奏（中学器楽 音楽のおくりもの）「教育出版」

美術（美術）「日本文教出版」

保健体育（新 中学保健体育）「学研」

技術（テクノロジーに希望をのせて）「開隆堂出版」

家庭（自立しともに支え合う生活へ）「開隆堂出版」

外国語（Sunshine English Course）「開隆堂出版」

道徳（中学道徳 明日を生きる）「日本文教出版」

となりました。

以上、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

それでは、ただ今のとおり決定します。

なお、冒頭で申し上げましたとおり、議案第182号「令和7年度使用千葉市立中等教育学校（前期課程）用教科用図書の採択について」は、ただいま議決した議案第181号の教科用図書を選定することといたします。

こちらについても、委員の皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

ご異議ないようですので、以上のとおり決定いたします。

以上で、本日の議事日程記載の案件に係る審議が終了しました。

最後に、事務局から何かありますか。

八斗教育指導課長 採択結果については、本日中に市ホームページ上で、公開する予定であることをお伝えします。

鶴岡教育長 以上で、令和6年千葉市教育委員会会議第2回臨時会の日程は、全て終了いたしました。

閉会とします。

9 その他

第8回定例会は、8月23日 金曜日 午後2時00分からとした。

10 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言